

## 第6章 多胎育児家庭に対する家庭訪問型支援の先進事例

### はじめに

多胎育児家庭の特別なニーズに応えるために、先駆的な訪問型支援を実施している自治体5か所と医療機関1か所、専門職団体1か所、子育て支援団体2か所に対し、それぞれの施設内にて、インタビューガイドに基づいて面接調査を行った。対象とした機関・団体は、日本多胎支援協会が日頃の活動状況やホームページで把握した中から選出した。実施主体別(A. 行政主体の支援、B. 行政が主体となって当事者と連携する支援、C. 当事者団体と医療・行政が連携する支援、D. 民間の支援団体が主体の支援)に9事例を紹介する。

9事例のうち、支援方法としては、①保健師の家庭訪問に多胎育児経験者の同行、②健診会場での多胎育児経験者によるサポート、③入院中や外来受診先への多胎育児経験者の訪問、④家事育児ヘルパー派遣、⑤専門職団体の助産師の訪問、⑥子育て支援団体の多胎育児経験者の継続訪問、地域ボランティアの継続訪問があった。支援内容は、育児経験者や地域ボランティアは傾聴と情報提供、協働であった。

#### 【A. 行政主体の支援】

##### 1. 滋賀県大津市 「多胎児家庭育児支援事業」

—多胎児の誕生から3歳前日まで無料で120時間利用できる家事・育児支援、健診などの外出もサポート—

#### 1) 属性

(1) 自治体名 滋賀県大津市

(2) 管轄の人口動態(平成27年)

- ・ 人口 340,973人
- ・ 出生数 2,946人
- ・ 多胎出生数 約80人(40組)

#### 2) 事業の概要

(1) 事業名 多胎児家庭育児支援事業

(2) 事業の主たる担当課・担当者(職種)

大津市役所健康保険部保健所 健康推進課(保健師)

(3) 事業の目的

多胎児を養育している保護者の身体的及び精神的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み育てられる環境づくりの促進に資する。

(4) 対象者

大津市内に住所を有する多胎児の保護者で、多胎児の出生から3歳の前日まで。

0歳～3歳の前日までの多胎児をもつ家庭数は年間約140～160組。

(5) 内容(支援の概要)

①支援内容:多胎児を養育している家庭に対し、市が委託した介護事業所よりホームヘルパー等を派遣し、家事・育児の支援を行う。

- ・ 1世帯の1週当たりの利用回数は6回を限度とし、対象期間内に120時間を限度とする。
- ・ 利用可能時間は7時から19時まで。
- ・ 日常的な家事・育児支援。外出支援として、予防接種や健診等にも利用できる。
- ・ 支援例

家事援助:食事の準備・片付け、買い物、衣替えなどの整理整頓

育児援助:授乳介助、沐浴介助、通院等の介助、外出援助(原則市内)

その他:双子の受診時の兄弟を自宅託児。母の通院時の子どもたちの自宅託児。兄弟の学校園行事の際の双子の自宅託児。母親が家事を行う間の子どもたちの見守り。

兄弟の遊び相手。

②利用者負担 なし

③利用の周知

全家庭に案内を3回実施。1回目は母子健康手帳交付時(100%看護職が対応)。2回目は新生児訪問時(※多胎家庭は病院からのハイリスク連絡もあり、90%の家庭で新生児訪問を実施)。3回目は、新生児訪問の約2か月後に郵送。その他、ホームページに掲載。周産期保健医療従事者連絡調整会議(市内の全産科医療機関から医師・助産師等が参加し、年2回実施)において、医療者にも周知。市内産科医療機関でも案内を配布。

④利用方法

申し込み:申請書を提出。案内時に申込み用紙に記入されれば、そのまま申請となる。

電子申請も可能。

利用:委託介護事業所一覧から事業所を選定し、直接依頼する。

(6) 事業実施者 (委託の有無・委託費)

事業実施者:委託介護事業所

登録事業所のうち、利用希望者があった事業所と委託契約を結ぶ。

委託費:1時間あたり2,097円。(土曜日、18時以降でも同額)

(7) 事業経費の財源 (どこから拠出されているのか)

「子ども・子育て支援交付金」の養育支援訪問事業として、経費は国・県・市が各1/3を拠出。

(8) 事業化に至る経緯 (はじまったきっかけ。開始時期)

H.22年度4月1日より開始。H.5年ごろより多胎サークルの支援等を実施しており、育児が大変だとの声も届いており、議会の質問等を経て、事業化された。

(9) 事業実績

	対象者数 (家庭)	利用者数 (家庭)	利用割合 (%)	総利用時間 (時間)	平均利用時間 (時間)
H23年度	170	51	30	1,143.5	22
H24年度	183	48	26	1,575.0	33
H25年度	171	43	25	1,253.5	29
H26年度	176	40	23	705.5	18
H27年度	170	31	18	726.5	23
H28年度	161	34	21	1,107.5	33

- ・ H23 年度の 30%を最高として、徐々に利用率は下がっているものの、例年約 2 割の家庭が利用している。
- ・ 0 歳代で 120 時間を使い切った家庭が複数あったために、H. 28 年度の総利用時間は大幅に増えているが、利用家庭数としては微増である。

**(10) 訪問支援者の資格**

資格は特に設けていないが、実際にはヘルパー資格を持ち、委託する事業所にヘルパーとして登録する者。一部保育士資格を持つ。

**3) 連携（本事業についての連携機関・団体・個人）**

登録事業所、すこやか相談所、周産期保健医療従事者連絡会議（周知協力）、ツインクルザウルス（多胎自主グループ：意見聴取など）、子育て応援隊（事業紹介：自身も双子の親で、本事業の利用経験者）

**4) 訪問支援者**

**(1) 訪問支援者に求められる資質およびスキルと思われるもの**

一般的に、コミュニケーションがとれ、相手の表情が理解できること。家事をするのが目的ではなく、母親が楽になるための制度なので、特別に細やかにということではなく、日常会話で「今日は顔色が悪いけど」などといった母親の表情に気づいて声掛けや気配りが必要と思う。

**(2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修（有無、研修実施者）**

- ・ 市が主催の「多胎児家庭育児支援事業従事者研修会」を、年 1 回実施を目標としている。（※職員の勤務状況によっては実施できていない年もある。）
- ・ 内容は、多胎児家庭の特徴や虐待予防支援、保健サービスの紹介についてなど。
- ・ 従事者研修会の参加者アンケートでは、「多胎児の最新の状況について研修してほしい」「現在の育児に対する情報を教えてほしい」「新しい情報を知る機会が必要」などといった、最新の育児情報・地域との連携について知りたいという声が上がっている。

**(3) 訪問支援にかかわる保険・交通費（有無・保険団体）**

保険、交通費等については、委託先事業者が負担。

**《年度別事業決算額》**

		H26 年度 (千円)	H27 年度 (千円)	H28 年度 (千円)
直接経費 A		1,489	1,549	2,323
人件費 B		810	810	810
事業費合計 A+B		2,299	2,359	3,133
事業費の財源内訳	国	890	507	774
	県	890	507	774
	一般財源	519	1,345	1,585

**5) 効果**

**(1) 対象者（利用者）にとっての効果（利用アンケート、利用者の声・感想など）**

《利用者アンケートより》

- ・ 双子の面倒を見慣れている方なので、安心できた。
- ・ 見てもらう人がいなかったとき、助かった。
- ・ 先輩ママでもあるので、子育て情報やアイデアを聞いた。
- ・ 定期的に利用すれば、リズムが作れて良い。

日中の話し相手になってもらえた。

## (2) 行政側にとっての効果

- ・ 養育ハイリスクである多胎児の家庭を支援することで、養育者の育児負担や精神ストレス等の軽減が図られ、安全・安心な育児ができる。また、利用時間の負担をきっかけに、支援の必要性の変化がわかるため、他の支援に早急につなげることができる。
- ・ 多胎児を育児する家庭について、支援の必要な内容や時期のポイントがつかめ、安心して子育てできる環境づくりの施策の検討につながる。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 受益者負担となっている他の事業との整合性が課題である。

## 7) 今後の方向性

本事業については、今後も継続していく予定である。

## 8) その他・特記事項

- ・ 多胎児家庭からは、多胎児サークルへの支援の要望が大きい。現在は、市内の自主グループの会報の印刷や配布、周産期保健医療従事者連絡会議でサークル紹介の場を持つなどの支援を行っている。
- ・ 仲間づくりの場として「多胎児のつどい」を年に2回保健所で実施している。
- ・ 産前サービスとして「多胎妊婦のつどい」を実施したが、リストアップした対象者のほとんどが就労中で集えないため取りやめている。現在は県の助産師会が実施するプレパパママ教室を案内している。
- ・ 市で実施する「BP」といった育児支援プログラムは、現状では設定時期等の問題で多胎家庭は利用しづらい。多胎家庭向けのものがあれば良いと考えられる。

**1 利用できる方**  
以下の①・②の条件を全て満たしている方。  
①大津市内に住所を有する多胎児を養育する保護者  
★産後等、他市で生活されている場合は対象外★  
②多胎児の出生から3歳の誕生日の前日まで

**2 サービス内容**  
家事補助～日常家事のサポート～  
●食事の準備及び後片付け  
●洗濯等の清掃及び整理整頓  
●衣類の洗濯  
●生活必需品の買い出し  
●その他必要な家事

**対象となる内容**  
換気扇・棚戸の掃除などの大掃除  
足元の手入れ（草むしり含む）  
屋外の清掃及び整理整頓

**育児補助**  
●食事及び授乳の補助  
●おむつ交換の補助  
●沐浴の補助  
●乳幼児の兄弟の育児、送迎 ※  
●通学等の補助 ※

**3 サービス利用可能時間帯**  
月曜日～土曜日の午前7時から午後7時まで  
★日休、8月13日から9月15日まで及び12月29日から翌年の1月3日までを除きます。  
★ただし、事業所によって、利用可能な時間が異なります。詳しくは、事業所にお問い合わせください。

**4 利用できる時間・回数**  
★1世帯の1週当たりの利用回数は、6回まで。  
★1回当たりのサービス利用時間は、2時間です。ただし、週間の外出回数に4時間以上、★1回の利用時間の算出については30分以下は、0.5時間とし、30分を超え1時間までは1時間として加算します。

**5 利用時間の上限**  
1世帯当たりの利用時間数は、**多胎児の出生から3歳の誕生日の前日までの間に120時間**

**6 利用料金**  
無料（多胎児支援事業の120時間以内の利用に限る）

**7 利用するとき...**  
① 利用希望の保護者の方は、必ずこの相談所に申請書を提出し、また、大津市ホームページより電子申請をお願いします。  
※指定申請される場合は、事前に大津市健康推進課に必ず電話にてご連絡ください。  
② 申請書が大津市健康推進課に到着し審査後、2日～10日後に郵送で決定通知書・サービス開始のご案内を送付いたします。  
③ 決定通知書がご自宅に到着後、サービスを受けるとが別面になります。

平日9時～12時、13時～17時（土日祝除く）	
和達すこやか相談所	TEL. 594-8023
蟹田すこやか相談所	TEL. 574-0294
比叡すこやか相談所	TEL. 578-0294
中すこやか相談所	TEL. 528-2941
藤原すこやか相談所	TEL. 522-1294
南すこやか相談所	TEL. 534-0294
瀬田すこやか相談所	TEL. 545-0294

**8 決定通知書が届いたら...**  
① 保護者の方は事業所一覧から事業所を選択し、利用希望日を事前に事業所にお伝えください。  
② 事業所と利用者の合意がとれれば、希望日にホームヘルパー等が大津市内のご自宅等に派遣されてサービスの提供開始となります。

**9 利用日当日（毎週）**  
① 利用日当日は、毎週、サービスを受ける前に決定通知書ホームヘルパー等に提示してください。  
② 毎週、サービス終了後は、  
★決定通知書の裏面に、日付と印鑑を記載押印して戻してください。  
★ホームヘルパー等が実績報告書に日付・利用時間・援助内容等を記載したものを提示するので、保護者の方は確認後、印鑑を押印してください。

**10 キャンセルする場合**  
キャンセルする場合は、速やかに依頼した事業所にご連絡ください。キャンセル料は発生しません。

**11 お願い**  
① 通院等の介助で交通費が必要な場合は、保護者が支払ってください。  
② 食事やおやつ、オムツなどは保護者が用意してください。やむを得ず、ホームヘルパー等に用意してもらった場合は実費を支払ってください。

**12 換装責任について**  
サービスを受けているときに、事業者が利用者に着替えるときは、最初にその利用者に対してその措置を説明します。大津市は、その利用者に対して損害賠償の責を負いません。  
この事業に関することについての不明な点などは、大津市健康推進課までご連絡ください。

大津市健康推進課  
母性保健係  
多胎児家庭育児支援事業担当  
住所：新大津田丁目1番1号 朝日館大津2階  
電話：528-2748（平日9時～17時）

**多胎児家庭育児支援事業所のご案内**

**大津市健康推進課**

## 【A. 行政主体の支援】

### 2. 埼玉県川越市 「第三子及び多胎児産前産後ヘルパー派遣事業」 —多胎妊娠から産後1年まで、無料で64回利用できるヘルパー派遣事業—

#### 1) 属性

- (1) 自治体名 埼玉県川越市
- (2) 管轄の人口動態（平成27年）
  - ・ 人口 350,223人
  - ・ 出生数 2,739人
  - ・ 多胎の出生数 集計をしていない

#### 2) 事業の概要

- (1) 事業名 「第三子及び多胎児産前産後ヘルパー派遣事業」
- (2) 事業の主たる担当課・担当者（職種） 川越市こども未来部こども家庭課
- (3) 事業の目的

「第3子以降の子、または多胎児の出産の前後で、家事または育児の援助を行うヘルパーを派遣することにより、多子世帯及び多胎児の妊娠・出産期における母の負担軽減を図り、子育てを支援することを目的とする」(主たる目的としては、家事育児の負担を軽減すること)

#### (4) 対象者（利用者）

- ・ 市内在住、第3子以降の子の妊産婦、多胎児の妊産婦
- ・ 母親が対象(父子家庭からの問い合わせはない)
- ・ 所得制限なし

#### (5) 内容（支援の概要）

①支援方法:家事または育児の援助を行うヘルパーを派遣する。

- ・ 利用時間回数と回数 1日1回2時間以内 平日の8時から18時までで終わる業務。(土曜日や日曜日や祝日は要相談)
  - 第3子以降(中学生以下の子の人数)の子の妊産婦…妊娠から産後半年までの間に40回
  - 多胎児の妊産婦…妊娠から産後1年までの間に64回
- ・ 具体的な支援の内容 ヘルパー派遣事業所(高齢者や障害者対象のヘルパー派遣の事業所)でできる範囲のサービス。基本的には日々の生活に関すること
  - 家事…食事の準備、後片づけ。居室等の清掃、整理整頓。衣類の洗濯・補修。
  - 生活必需品の買い物。その他、必要な家事支援
  - 育児…授乳・食事の介助やその準備(ミルクを作ることも含む)、片付け、おむつ、衣類交換、沐浴・入浴の介助、きょうだいの世話など
- ・ 予約された母の受診に一緒に行く、学校の授業参観や幼稚園の発表会に下の子を連れて一緒に行く、などの外出同行も時間内であれば可能。
- ・ できないこと:衣替えや草むしりなど、日々の生活の中では行わないこと。保護者が不在時の留守番、ヘルパーの車を利用した送迎、子どもの預かり(一人を病院に連れていくときに一人を家でみている、というようなことはできない)など。

②対象者の利用負担 なし

### ③周知方法

- ・ 市の出先の機関などにチラシを設置
- ・ ホームページに掲載、
- ・ 母子保健担当課の新生児訪問等で案内 など

### ④利用方法

#### i 利用者から担当課への申請・登録

- ・ 申請書の記入(担当課窓口、来所、郵送、FAX または電子申請)

#### ii 担当課から派遣できるヘルパー事業所を利用者に連絡。

#### iii 事業者から利用者に連絡。事業所とのやりとりをして利用開始

- ・ 登録から派遣まで、長くて2週間くらい
- ・ 急な通院などでも利用は可能。事業所がヘルパーを派遣できるかどうかによる。
- ・ 利用が始まったあとのキャンセルや日程変更については、事業所と直接やり取りをしてもらう。ヘルパーが入る初回日に市の職員も訪問し、簡単な制度説明は行う。その中で「曜日変更等のやり取りは、ヘルパーの事業所さんとやっていただいで結構です」、「何かご不明な点があれば、こども家庭課に」と伝えてある。
- ・ ヘルパーは長期になる場合など、一人で担当するのは難しいため、同じ人が毎回来るのではなく、事業所の裁量によって2～3人で担当している。

## (6) 事業実施者

事業実施者 川越市

委託先 訪問介護事業所(ヘルパー派遣事業所)への委託。市内7事業所。

## (7) 事業経費の財源

- ・ 川越市の一般財源 約1,000万円
- ・ 1時間につき3,000円が事業所に支払われる。
- ・ 前日の17時以降および当日のキャンセルも1時間分支払い。(利用者も1回分に数えることを伝える)

## (8) 事業化に至る経緯

平成26年度「地域活性化・地域住民生活緊急支援交付金」200万円を活用して事業を開始したところ、利用者が予想以上に多く、現在の予算規模となっている。市民のニーズに応えた形になった。

## (9) 事業実績

平成27年度 53件(6月事業開始だったので4～5月はなし)約2400時間

平成28年度 78件(3500時間弱)中、多胎家庭の利用は15件

- ・ 授業参観や発表会の時に利用したいというような場合は1・2回で終わってしまうこともある
- ・ 利用限度全回数を利用する対象家庭は1～2割である。

## (10) 訪問支援者の資格

- ・ 介護福祉士、介護職員初任者研修修了者、ヘルパー2級(契約の範囲内としては、ヘルパー2級以上)
- ・ 今のところ派遣されるヘルパーは全員女性(対象が母親であるため)
- ・ 男性ヘルパー派遣も可能

## 3) 連携(本事業についての連携機関・団体・個人)

- ・ 川越市母子保健担当課(事業の紹介)
- ・ ヘルパー派遣事業所
- ・ 子育て支援NPO法人(スキルアップのための研修会講師として、講師を招聘)

#### 4) 訪問支援者

##### (1) 訪問支援者に求められる資質およびスキルと思われるもの

- ・ 派遣するヘルパーについては地域や時間帯などを配慮のうえ事業所が決定するが、守秘義務や個人情報保護などについて遵守できる人を、育児経験者や人柄などについて配慮して派遣することが望ましいと考えている。

##### (2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修 (有無、研修実施者)

- ・ あり 市が主催する研修会が年1回
- ・ 事業所によっては、外部研修への自主的な参加(事業所による)
- ・ 全員参加できるわけではない

##### (3) 訪問支援にかかわる保険・交通費 (有無・保険団体)

- ・ 1時間 3000 円の委託費のなかから、事業所が負担

#### 5) 効果

##### (1) 対象者(利用者)にとっての効果(利用アンケート、利用者の声・感想など)

- ・ アンケートによると「とてもよかった」が7割。おおむね満足していると思われる。  
回数 「少ない」、「適当」、「多い」の選択肢では「適当」が最多。  
派遣の時間(1日1回2時間)「短い」、「適当」、「長い」の選択肢では「適当」が最多。  
家事援助の内容は、「掃除」が最多。  
育児援助の内容は、「きょうだいの世話」が最多。
- ・ ゆとりができたことの効果のみられた。家事をやってもらうことによって、精神的にも時間的にもゆとりができたという声が多かった。子どもへの接し方にゆとりが出たり、自分の気持ちが落ち着いたなど。
- ・ 上の子どもと遊んでくれたことでの効果があった。「ヘルパーさんが子どもと仲よくなってきて、それがとてもありがたかった(きょうだいの世話)」や、多胎で週2回利用していた家庭では、「双子の上の子が赤ちゃん返りで少し不安定だった。ヘルパーさんがたくさん遊んでくれたので母も精神的に助けられた。上の子もヘルパーさんが大好きになり、来てくれる日をいつも楽しみにしていた」。また母に「今度、ヘルパーさんいつ来るの?」と聞き、利用が終わったあとに、家族でヘルパーの事業所に挨拶に行ったというケースもあった。
- ・ 話し相手としての効果があった。母が、家にずっといなければならない、なかなか出られないという状況の中で、ヘルパーが来てくれることによって、話を聞いてくれて気持ちが楽になる効果があると考えられる。
- ・ 自分にもできそうだと自覚する自立的な効果があった。実際に利用していく中で「もう大丈夫だと思うから」ということで、終了する方もいる。

##### (2) 行政側にとっての効果

- ・ 上記のような「使ってよかった」という声をいただくのは非常にありがたい。事業の評価は「利用者の声」だと考えられる。

- この事業に対しての効果は利用者の声で計るしかないと思う。川越市も「子ども・子育て支援事業計画」があり、基本理念としては「安心して子育てができるまち川越」を掲げている。ひとつの支援で全てが安心というわけではなく、複合的なところで基本理念を達成していくものなので、本事業に対する行政としての効果という計りづらい。

## 6) 事業展開にあたっての課題、今後の方向性

- 対象者について「第1子の方が、経験がなく大変だ」という声もいただく。しかし第1子からとなると、利用者数も莫大な数になる。制度を立ち上げるときに、全訪問介護事業所にお問い合わせや PR をして7事業所に委託したという事情もあり、現実的に難しい。
- 利用者数が増えると財源的に難しくなる。利用者の負担も検討せざるを得なくなる。来年度も現行制度を維持する予定だが、庁内でも検討についても指摘されているところ。事業廃止はないと思われるが、対象や内容は今後変わる可能性はある。

# 第三子・多胎児産前産後ヘルパー派遣事業

無料

産前産後、体調不良などで家事や育児が大変なご家庭に事業所からヘルパーが訪問し、お母さんのお手伝いをします！

サポートできる内容

- ・授乳・沐浴・おむつ交換
- ・掃除・洗濯・買い物・食事の用意
- ・きょうだいのお世話など

※留守番や車での送迎はできません。  
 ※日常の家事の範囲でのサポートに限ります。  
 ※前日17時以降のキャンセルは利用回数1回に数えます

**利用できる方**

※いずれも、川越市内にお住まいで、母子手帳などにより妊娠出産が確認できる方に限ります。  
 ※利用日時について、ご希望に添えない場合があります。また、申請は2週間前までをお願いします。

**A. 第3子以降の子どもの妊産婦の方・・・妊娠から産後半年までの間に40回**  
 (利用期限) 出産予定日が平成28年4月1日の場合は、同年9月30日まで

⇒ 子どもの人数は、中学生以下の人数を数えます。

**B. 多胎児の妊産婦の方・・・妊娠から産後1年までの間に64回**  
 (利用期限) 出産予定日が平成28年4月1日の場合は、平成29年3月31日まで

**利用日時**.....

月曜日から金曜日の午前8時～午後6時（土、日、祝日は要相談。年末年始を除く）  
**1日1回2時間以内**

**申込方法【母子手帳発効後に申請を受け付けています。】**

- ・申請書を下記の担当課窓口持参・郵送・FAXで提出してください。  
 ⇒市ホームページから電子申請ができます。
- ・申請書は下記担当課窓口のほか、お近くの市民センターにあります。  
 ⇒市ホームページからダウンロードできます。

電子申請QRコード  
(携帯電話用)



**申し込み・問い合わせ窓口**

〒350-8601 川越市元町1丁目3番地1  
 川越市役所 こども未来部こども家庭課  
 TEL/049-224-5821 FAX/049-225-5218



【B. 行政が主体となって当事者と連携する支援】

3. 兵庫県宝塚市 「多胎ファミリー・健診サポート」  
—ピアサポーターによる、無料の乳幼児健診サポート—

1) 属性

- (1) 自治体名 兵庫県宝塚市
- (2) 管轄の人口動態（平成 27 年）
- ・ 人口 233,776 人(平成 27 年)
  - ・ 出生数 1,745 人(平成 27 年)
  - ・ 多胎出生数 約 40 人(20 組)

2) 事業の概要

- (1) 事業の主たる担当課 宝塚市健康福祉部健康推進室健康推進課
- (2) 事業名 多胎ファミリー・健診サポート
- (3) 事業の目的

多胎児家庭の乳幼児健診時の育児支援をすることで、多胎児家庭の乳幼児健診の未受診をなくす

(4) 対象者（利用者）

4 か月児健診・10 か月児健診・1 歳 6 か月児健診対象の多胎児家庭の希望者

(5) 内容（支援の概要）

①支援法:

- ・ 多胎育児の経験のあるピアサポーターが乳幼児健診の会場で保護者のサポートをする。
- ・ 双子の場合はピアサポーターが 1 名、みつごの場合はサポーターが 2 名で支援する。
- ・ 4 か月児健診でサポートを受けた人は次の 10 か月児健診のサポートも利用する傾向がみられる。

②対象者の利用負担 なし

③利用の周知

- ・ 母子健康手帳交付の時に多胎妊婦に対してマタニティライフプランを配布しており、その中に本事業を掲載している他、ホームページ上でも周知している。
- ・ 乳幼児健診のお知らせの郵送時に、多胎家庭には健診サポートのチラシを同封する。

④利用方法

- ・ 申し込みは、「ひょうご多胎ネット」に、チラシに掲載されている連絡先のQRコードを使ってメールや電話で、利用希望者が直接申し込む。
- ・ ピアサポーターから連絡を受けた際に待ち合わせ場所・時間を相談し利用する。

(6) 事業実施者（委託の有無・委託費）

宝塚市

事業依頼先 ひょうご多胎ネット、多胎育児支援グループ cherry peer(チェリーピア)

(7) 事業経費の財源

宝塚市母子保健健康診査事業

(8) 事業化に至る経緯

- ・ 平成 26 年度、多胎育児支援について学ぶため「多胎育児支援専門研修会」を開催した。この研修会には市保健師・県健康福祉事務所保健師などの専門職と多胎育児支援グループチェリーピアの子育て支援者が 31 人出席し、交流を深めるとともに多胎児家庭は養育においてハイリスクな状況ということを再認識し多胎家庭への支援の必要性を強く感じた。
- ・ 平成 27 年度、市より多胎児の健診サポートへの協力を呼びかけたところ、ひょうご多胎ネットの会員として活動している保健師職の者が中心となりひょうご多胎ネット、多胎育児支援グループ チェリーピアが協力してくれることが決まった。宝塚市・ひょうご多胎ネット・チェリーピアの協働事業として平成 27 年度はモデル事業として、平成 28 年から本格的に実施した。
- ・ ポイントとしては、開始にあたる内部調整をひょうご多胎ネットが一手に引き受けてくれたこと、協力団体と利用者が直接やり取りして利用する仕組みにできたことが大きい。ひょうご多胎ネット、チェリーピア、市の協働事業として発展させたい。

### (9) 事業実績

平成 28 年度 (H28.4 月～H29.2 月までの統計) ※利用組数／受診組数＝利用率%

- ・ 4 か月児健診 対象者 25 組中、受診組数 22 組のうち 4 組利用 (18.2%)
- ・ 10 か月児健診 対象者 26 組中、受診組数 18 組のうち 6 組利用 (33.3%)
- ・ 1 歳 6 か月児健診 対象者 19 組中、受診組数 17 組のうち 3 組利用 (17.6%)
- ・ 健診に家族の付き添いがある人は利用していない。

### (10) 訪問支援者の資格

ひょうご多胎ネットまたは多胎育児支援グループ チェリーピアの会員であること。

## 3) 連携

ひょうご多胎ネット、多胎支援グループ cherry peer (チェリーピア)

## 4) 訪問支援者

### (1) 訪問支援者に求められる資質およびスキル

多胎支援グループ団体の会員であること

### (2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修

年 1 回、事業報告会を行い担当課職員と協力団体の健診サポートの担当者が出席し、振り返りをしている。この時に受診者への接し方や服装について研修、利用状況やアンケート結果の報告、サポートする際の課題などについて話し合っている。

### (3) 訪問支援にかかわる保険・交通費

保険は協力団体に任せている。交通費は手数料に含まれている。

## 5) 効果

### (1) 対象者にとっての効果 (利用者のインタビューは、本報告の最後に紹介)

- ・ 平成 28 年度の利用者アンケートによると「人手があつて助かった」「ふたごのことをいろいろ聞くことができて良かった」「今は辛くて先が見えなかったけど、気持ちが落ち着き楽になり、すごく参考になった」という声があり、孤立の防止につながったと思う。
- ・ 少数ではあるがサポート後に多胎サークル「ぐりとぐら」に入会し、つながりが見られたケースもある。

## (2) 行政にとっての効果

多胎家庭の未受診対策になっている。また、保健師だけではサポートしきれない部分があり、経験者の実体験や何気ないアドバイスは心強い。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 利用率を上げること。そのため、多胎妊婦については妊娠届を出した人に「マタニティライフプラン」という事業一覧を配布しているが、その裏面に、この事業の説明を載せ、周知の徹底を図っている。
- ・ 健康センター以外の場所で妊娠届を出し、母子健康手帳を交付した多胎妊婦については、後日健康センターの保健師より電話にて妊婦相談を実施、マタニティライフプランを郵送している。

## 7) 今後の方向性

- ・ 利用者増加にむけて、周知方法を検討していく。
- ・ 一人で多胎児の健診をこなすのは本当に大変。大変な思いをしたために健診が嫌な思い出にならないようにしたい。
- ・ この事業は協力団体あつてのことで、利用した人が次にサポーターになるなど、支援の循環がされていくと良い。

## 8) その他

市の子ども家庭支援センターでは、有料の産後ヘルパー派遣事業を行なっている。多胎家庭の場合は年間の利用可能回数が単胎家庭に比べて多くなっている。

## 9) 利用者のインタビュー

### 市内在中 A さん (2 歳男児の双子の母)

- ・ 健診のお知らせが市から来た時に一緒に「サポートがあります」というお知らせが入っていたので、4 か月健診、10 か月健診、1 歳半健診の全部をお願いした。実家が遠く、主人の母も仕事をしているので絶対お願いしようと思った。
- ・ 当日は持ち物も多く、特に 4 か月健診は、泣くし着替えもできないし、駐車場も遠くて移動も大変だったので、サポートがなかったらどうなっていたかわからないと思う。入り口のところでサポートの人が待っていてくれて、お会いしただけで「ああ、良かった」とホッとした。
- ・ 健診中も病院と違って移動があるので、特別にベビーカーを持ち込んでもいいよと言ってもらったのだが、他の人もいるし、ベビーカーで移動するのも厄介なので助かった。
- ・ 10 か月健診の時は大雨で帰りに「私たちが見てるから車を回しておいで」と言ってもらえてありがたかった。
- ・ 健診で「時間通りにご飯を食べさせなきゃ」「食器やスプーンは分けて」と言われたが、双子だと子ども同士が勝手にスプーンを交換していたりするので無理なので辛くて。サポートの人に「いいよいいよ、そんなの。それは双子では難しい。病気も移る時は移るから。」と言われて気持ちが楽になった。そう言ってもらわなかったらパニックになっていた。
- ・ 健診で発達に心配なことがあって「このまま何もなければいいけど」と言われた。「どうしよう」と思ったが、サポートの人が側にいて慰めてくれて、誰かが側にいてくれるだけで心強かった。
- ・ サポートの人が双子のお母さんだったので、「もうちょっとしたら楽になるよ」「このぐらいになったら、こうなる

よ」とか先を教えてもらって、すごくありがたかった。そして、そのとおりになった時には「ああ、あれだ」と思った。そういう言葉を心の支えにしていた。

- 4か月健診で「こういうお手伝いをしてもらえるんだ」と思ったら、次の10か月や1歳半は楽しみになっていた。
- お風呂やご飯や夜中の授乳、そういうことが1人の子育ての人とは全然違う。例えば公園に遊びに行くのも、「出入り口が2ヶ所あったり道路に面していたりするところは大変なので、こういう公園がいいよ」とか教えてもらえるのは、すごくありがたい。
- 多胎サークルや健診サポートの人が心の支えだった。多胎サークルに入っていなかったら鬱になっていたと思う。最初の2〜3か月の頃は子どもたちがどうして欲しいのか分からないので、よく泣けてきた。多胎サークルに行くと先輩ママが1人を見ていてくれたり、悩んでいることを話すと、みんなが「大丈夫よ」と言ってくれたりした。今度は自分が小さい子のママにしてあげられたらと思う。主人にも多胎サークルの話はよくしているので、「多胎サークルの代表をやろうと思う」と話したら「良いじゃん。心の支えなんですよ」と応援してくれている。してもらったことをできたらいいなと思う。健診サポートも将来的にはサポートする側になれるといいなと思っている。サポートの人が押し付けずに聞いてくれて「うちはこうだったよ」と教えてくれた。特別な資格はなくても経験者であればいいと思う。
- この前、児童館で双子ママに会った。「やっと出てこれました」と言っていて、その「やっと」という感じがよくわかる。やっぱり双子でないとわからないことがあると思う。例えば「年子より楽」とかよく言われるけど、やってみてほしいと思う。みんなが理解してくれるといいなと思う。
- 宝塚市以外の人から「健診サポートがあつていいな」と言われる。自慢している。他の市にもあつたらいいなと思う。

## 多胎ファミリー・健診サポートのご案内

宝塚市

喜びも大変さも2倍3倍の子育てに日々奮闘していらっしゃると思います。



宝塚市では、多胎育児支援グループの協力により、乳幼児健診の会場で、ちょっとしたお手伝いをする「多胎ファミリー・健診サポート」を実施しています。

健診中に1人で子どものお世話ができるかしら？と悩んでいるママをサポートします。多胎育児先輩ママの「ピアサポーター」と空き時間に多胎育児についてのおしゃべりすることもできます。ぜひご利用ください。

【対象】4か月児・10か月児・1歳6か月児健診で人手が足りない多胎児の保護者

【費用】無料

【サポートグループ名】・ひょうご多胎ネット ・多胎育児支援グループ<sup>チェリーピア</sup>cherry peer

【申込】健診日の2週間前までにお申し込みください。(予約制)

下記QRコードにアクセスし、件名:「多胎ファミリー・健診サポート申込」  
内容:①保護者氏名 ②子ども氏名 ③子どもの生年月日 ④携帯電話番号  
⑤健診名(4か月児健診・10か月児健診・1歳6か月児健診)と健診  
受診日を入力後、ご送信ください。



kensin.sapo@gmail.com



※申込みを確認後、サポートグループの担当者より、保護者へ連絡をします。

上記アドレスの受信設定をお願いします。

※メールを利用されない方は、ひょうご多胎ネット(078-992-0870)へお電話ください。

<sup>チェリーピア</sup>  
多胎育児支援グループ cherry peerとは

ぶらごこむ1(宝塚市売布東の町)で毎月1〜2回(不定期)、ピアサポート活動や多胎育児支援講座の開催などを行っている多胎育児先輩ママのグループです。

【B. 行政が主体となって当事者と連携する支援】

4. 福岡県久留米市 「多胎妊産婦（家庭）のための産前・産後サポート事業」  
—妊娠中から産後4か月前日まで、無料で自宅や病院で受けられるピアサポート訪問—

1) 属性

- (1) 自治体名 福岡県久留米市
- (2) 管轄の人口動態（平成27年）
- ・ 人口 306,173人
  - ・ 年間出生数 2,971人
  - ・ 多胎出生数 32人（16組）

2) 事業の概要

- (1) 事業名 多胎妊産婦（家庭）のための産前・産後サポート事業

【産前産後訪問事業】と【病院訪問事業】を含む

- (2) 事業の主たる担当課・担当者（職種）

久留米市子ども未来部子ども子育てサポートセンター（保健師）

- (3) 事業の目的

一般家庭と比較して虐待が多い多胎家庭へのピアによる支援システムを構築し、多胎妊婦・多胎児家庭特有の孤独感、閉塞感を緩和し、ひいては虐待予防につなぐ。

- (4) 対象者（利用者）

【産前産後訪問事業】

妊娠中～産後4か月未満の、久留米市に住所がある多胎家庭。※産後うつは2週間～1か月が多いためこのように規定しているが、市長が特に定める場合は、その限りではない。期間延長が望ましい場合は延長も可能。（母子手帳交付時に延長が可能なことについて説明する。）

【病院訪問事業】

多胎妊娠中で、通院中または入院中の方。久留米市民でなくても、会場である久留米大学病院、聖マリア病院に通院中または入院中の方も参加可能。個人病院に通院中の方も主治医の（体調的な）許可があれば参加可能。

- (5) 内容（支援の概要）

①支援法

【産前産後訪問事業】

多胎育児経験者が、多胎家庭を訪問して、双子育児についての悩みや不安の傾聴と、利用できる社会資源（エンゼル応援隊、ファミリー・サポート・センター、多胎自主サークル等）の紹介等をする。

- ・ 妊娠中から産後4か月以内に2回利用可能。訪問時間は1回1時間半～2時間弱。
- ・ 「新生児訪問事業」として実施する保健師（もしくは助産師）の訪問に、多胎自主サークル「ツインズクラブ」のピアサポーターが同伴訪問する。
- ・ ピアサポーターは、出生時の母親の年齢、卵性、兄姉の有無、出生体重、地域などを考慮して、ツインズクラブがマッチングする。

- ・ 訪問時は、保健師による専門的支援(母の心身の回復状況や、児の発育確認、家庭環境調整など)を行い、その後ピアサポーターが双子育児についての悩みや不安を聞いたり、利用できる社会資源の紹介をする。

#### 【病院訪問事業】

多胎育児経験者が、病院に訪問して情報提供と座談会形式の交流会を実施する。

- ・ 聖マリア病院、久留米大学病院を交互に会場とし、毎月1回開催。実施時間は1時間半～2時間弱。
- ・ どちらの病院(会場)へも参加でき、希望があれば何度でも参加可能。
- ・ ツインズクラブのピアサポーターが、パワーポイントを使って、40分程度多胎妊娠・出産・育児についての生活情報を提供した後、座談会形式の交流会を実施。
- ・ 医療的ケア等への対応のため病院スタッフは同席またはオンコール体制としている。

②対象者の利用負担 なし

③利用の周知と申込み方法

母子手帳交付時に保健師が事業案内を配布して説明する。各病院へも周知し、チラシを配布。

#### 【産前産後訪問事業】

保健師から新生児訪問の連絡時に、多胎育児経験者が同行できることを説明、了承を得た家庭に対して実施。2回目は直接ツインズクラブへ申し込む。

#### 【病院訪問】

予約不要の自由参加制。病院から、参加予定者数等の情報提供を受けている。

(6) 事業実施者 (受託の有無・受託費)

- ・ ツインズクラブへ委託 随意契約
- ・ 委託費 両事業共に、1サポートにつき、12,960円(久留米市講師謝礼基準を踏まえ設定)

(7) 事業経費の財源 (どこから拠出されているのか)

- ・ 母子保健衛生費国庫補助金(母子保健医療対策総合支援事業:妊娠・出産包括支援事業)及び市予算

(8) 事業化に至る経緯 (はじまったきっかけ。開始時期)

- ・ 以前より、多胎家庭への妊娠期からの支援のあり方について、ピアによる支援を望む意見が市民よりあげられていた。
- ・ 国の母子保健医療対策総合支援事業実施要綱及び、産前・産後サポート事業運営要綱にも、子育て経験者の利用が謳われており、多胎児育児経験者等のピアと専門職がそれぞれの持ち分を活用して連携することで更により支援になるのではないかと考えた。
- ・ 久留米市内には、多胎出産の90%弱を扱う2つの総合周産期母子医療センターと多胎自主サークル(ツインズクラブ)が揃っており、ぎふ多胎ネットの事業などを参考にして、担当課より、平成29年1月頃より関係機関への提案を開始した。
- ・ 多胎家庭支援に特化する必要性や多胎特有の育児困難さ等のプレゼンテーションを行い、事業趣旨のへ理解と協力を得て、会場の無料提供が実現した。このような経過を経て、平成29年6月より事業を開始した。

(9) 事業実績

#### 【産前産後訪問事業】

- ・平成29年10月12日までに対象者4人中3人が利用。その内、1名が2回目訪問を希望中。

#### 【病院訪問事業】

- ・平成29年7月より開始し、10月12日で4回目(各病院各2回)を実施。今年度は各4回実施予定。

#### (10) 訪問支援者の資格

ツインズクラブが平成28年度に実施した日本多胎支援協会主催の「ピアサポーター養成講座」の受講者が現在は活動に従事。

#### 3) 連携(本事業についての連携機関・団体・個人)

聖マリア大学病院、久留米大学病院、ツインズクラブ

#### 4) 訪問支援者

##### (1) 訪問支援者に求められる資質およびスキル

事業の本質である専門職によらないピア視点による支援がポイント。対象者の気持ちに寄り添い傾聴し、理解してくれることが大事。プラスアルファで多胎家庭が利用しやすい、エンゼル支援訪問事業(産前産後ヘルパー派遣事業)や他の社会資源を知っていればなお良い。(必要があれば保健師が、市の行政サービスの紹介を追加している。

##### (2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修

現在市では特には実施しておらず、ツインズクラブが実施。ツインズクラブでは他にも、ファミリー・サポート・センターのボランティア養成講座や子育て支援に役立つ講座、最新の子育て支援情報を学ぶ機会などを紹介している。

##### (3) 訪問支援にかかわる保険・交通費(有無・保険団体)

ツインズクラブとして市民活動ボランティア保険(無料)に加入中。ツインズクラブでは、社会福祉協議会のボランティア保険への加入も検討中である。交通費は委託費に含むものとし、別途の支払いはない。

#### 5) 効果

##### (1) 対象者(利用者)にとっての効果

- ・実施後アンケートから、「妊娠中の過ごし方、授乳方法や沐浴方法などが具体的にわかって安心した」などの結果が得られた。病院訪問事業の参加者が市とツインズクラブで共催する多胎児学習会や関係団体主催のプレパパママ教室にも参加するなど、地域資源の利用につながっている。
- ・2病院とは、年度でまとめて意見交換会を行う予定。(年末か年始に次年度以降の相談を行う予定。)
- ・ツインズクラブからは以下の報告があった。

#### 【病院訪問事業】

病院助産師:

- ・難しい医療用語など使わずに、具体的で実践的なことを体験を交えて話されていて良い。
- ・自分たちの想像を超えている内容もあり興味が湧いたし、多胎家庭は大変そうだった。
- ・父親や祖父母も参加されると良いと思う。
- ・病棟入院中で安定している方も参加できればと思うが、2時間は長いので、途中で休憩をこまめに入れるなどのアドバイスはしようと思う。

- ・ クッションなども病院から提供できるので用意し、なるべく楽な体制で会話を楽しめるようにしたい。里帰り中でも利用できる制度の説明などがあると良いと思う。

参加者：

- ・ (妊婦の実母)無事に生まれるのかととても心配だったが、参加して安心できた。
- ・ (経産婦)不安なことがあったが、すごくためになった。次も都合がつけば参加したいと思う。
- ・ (初産婦)：1回だけでなく2回違う講師の話聞くことで、より多胎妊娠の経過や産後の育児のイメージがつかめた

ピアサポーター：

- ・ 久留米大学の病院訪問では医療者が同席されていたので、医療的な質問が出ても大丈夫だと安心してサポートが行えた。

## (2) 行政側にとっての効果

【産前産後訪問】専門職が、ピアと訪問することで多胎育児について学ぶことができる。

【病院訪問】久留米市、医療機関、ツインズクラブのそれぞれが担うべき役割がある中で、この行政・医療保健・地域資源の3つがうまく連携し、ネットワークを構築することで、虐待の予防に寄与している。行政がコーディネート機能としてそれぞれと十分な連携を行い、ピアが活動しやすい事業にする為に今後も意見交換しながら行う。

## (3) 委託団体（ツインズクラブ）にとっての効果

ツインズクラブからは、以下のような声があがっている。

- ・ 多胎児の親として自分が苦勞した経験を次の双子ママに伝えることができ、自分自身もエンパワメントできる。
- ・ 保健師と同伴することにより、医療的な面でのサポートの様子や、市の保健事業について学ぶことができ、ツインズクラブの集まりなどで乳幼児の双子ママと話をする時にも声のかけ方等で役立つ。
- ・ 最大のメリットは、同伴訪問による要支援者の掘り起こし及び、訪問事業で知り合った方をツインズクラブに繋ぐことにより継続支援が可能になること。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 多胎は全数把握できるため、この事業についてしっかり対象家庭に周知説明していくこと。
- ・ アウトカムを行うこと。質的な面で評価を行う予定である。評価指標等があれば参考にしたい。
- ・ ツインズクラブが活動しやすいようにサポートすること。
- ・ ピアサポーターの養成と質の担保や次世代育成。

## 7) 今後の方向性

- ・ 当面継続し、ツインズクラブがしっかりと事業運営ができるよう支援を行いたい。
- ・ 支援された人が支援者となる循環型子育て支援、地域づくりとなるようにしたい。
- ・ 通年事業として来年度は6回ずつ毎月いずれかの病院で病院訪問事業を実施する。
- ・ 安静指示等により講座に参加できない人へのベッドサイド訪問を検討する。



## 多胎妊産婦(家庭)のための産前産後サポート事業(自宅等訪問事業)

多胎児家庭は、身近に多胎妊娠経験者がおらず、育児支援が少ない現状があります。  
久留米市では、平成29年度から、**多胎妊産婦(家庭)の方を対象として**、ピアサポーター(多胎児育児経験者)が自宅等を訪問し、妊娠中のこと、これからの子育てのことなど、さまざまな相談に応じます。

### 産前産後サポート訪問事業利用券Q&A

- Q：利用券の使用期間は？  
A：母子健康手帳の交付を受けた日から、お子様が4か月になる前日までです。  
4か月を迎えてしまうと、利用券は使えなくなりません。
- Q：この利用券はどのように使ったらいいの？  
A：この利用券は、「利用までの流れ」に沿って、産前産後あわせて**2回まで**利用できます。例えば産前2回、または産前1回産後1回、または産後2回といったかたちで、状況に応じて使用できます。
- Q：久留米市から転出して使えないの？  
A：久留米市から、他の市町村へ転出された場合、この利用券は使用できません。



### 【利用までの流れ】

- ツインスクラブの連絡先に、以下の内容を、ショートメールまたは、電話により申し込む。  
① 件名：産前産後サポート事業利用希望  
② 氏名 ③ 生年月日 ④ 住所 ⑤ 連絡先  
⑥ 利用希望候補日時(第1希望日時・第2希望日時)  
⑦ 相談したいこと  
(申込みは利用希望日時の1週間前までに行ってください)
- 後日、指定された連絡先に、日時や場所など利用にあたっての詳細について、ツインスクラブより連絡があります。
- 利用日当日、利用券をピアサポーターに提出する。

【申し込み先】：「ツインスクラブ」  
TEL：090-3417-0476(村井さん)  
TEL：090-9574-2678(江崎さん)

《事業全般に関するお問い合わせ》  
久留米市子ども未来部 子ども子育てサポートセンター  
TEL0942-30-9731 / FAX0942-30-9718



## 多胎妊産婦(家庭)のための産前産後サポート事業(病院訪問事業)

久留米市では、平成29年6月から、**多胎妊産婦の方を対象とした**病院訪問事業を行います。指定された日時にツインスクラブのピアサポーター(多胎児育児経験者)が病院を訪問し、妊娠中のこと、これからの子育てのことなど、さまざまな相談に応じます。



### 事業内容

以下の日程において、ピアサポーター(多胎児育児経験者)が病院を訪問し、グループミーティングや個別相談などに応じます。  
(※申請は不要です。ただし、事業を利用する場合は、主治医や助産師にご相談のうえ、ご参加ください。)

#### 久留米大学病院総合周産期母子医療センター

日にち	時間	場所
平成29年8月24日(木)	13:00~15:30	総合診療棟4階 共同カンファレンス室
平成29年10月12日(木)	13:00~15:30	総合診療棟4階 共同カンファレンス室
平成29年12月14日(木)	13:00~15:30	総合診療棟4階 共同カンファレンス室
平成30年2月8日(木)	13:00~15:30	総合診療棟4階 共同カンファレンス室

#### 聖マリア病院総合周産期母子医療センター

日にち	時間	場所
平成29年7月11日(火)	13:30~15:00	タワー4階病棟食堂
平成29年9月12日(火)	13:30~15:00	タワー4階病棟食堂
平成29年11月14日(火)	13:30~15:00	タワー4階病棟食堂
平成30年1月16日(火)	13:30~15:00	タワー4階病棟食堂

(主治医に確認してください！)

かかりつけの病院が、久留米大学病院または聖マリア病院でない多胎妊婦の方も参加できます。ただし、その場合は、事前にかかりつけ医にご相談のうえ、ご参加ください。



【事業委託先】  
「ツインスクラブ」  
《事業全般に関するお問い合わせ》  
久留米市子ども未来部 子ども子育てサポートセンター  
TEL0942-30-9731 / FAX0942-30-9718

【C. 当事者団体と医療・行政が連携する「多胎支援ネットワーク」での訪問支援】

5. NPO 法人ぎふ多胎ネット（岐阜県） 「ピア家庭訪問・個別訪問」  
—ピアサポーターが、妊娠期から子育て期まで多胎家庭に出向いて個別に支援—

1) 属性

(1) 団体名（法人格）

NPO 法人ぎふ多胎ネット

(2) 地域の状況

- ・ 岐阜県は飛騨地域、中濃地域、東濃地域、岐阜地域、西濃地域からなる人口およそ 200 万人の県。
- ・ その人口のほとんどは名古屋市への通勤圏内の岐阜市などの市町に集中しており、飛騨地域、中濃地域では過疎化・高齢化が進み、多胎出生数も地域によって、かなりのばらつきがある。
- ・ 多胎出産のできる病院は県内 3～4 か所に限られており、飛騨地域や中濃地域にはないため、自宅から遠く離れた病院での入院・出産になる。
- ・ 岐阜県全体が広いと、地域ごとにサポーターとそれを束ねるコーディネーターがいて、居住地域のサポートに当たっている。
- ・ 他県の隣接の市町村の支援も対応している。

2) 事業の概要

(1) 事業名 ピア家庭訪問・個別訪問

(2) 事業の主たる担当課・担当者（職種）

ピア訪問部会 ピアサポーターとコーディネーター

(3) 事業の目的

多胎家庭を訪問して多胎育児経験者が話を聞き、共感、寄り添うことにより、孤立感・不安感の軽減を図り、その後の育児の見通しを持つことができるようにすると共に、切れ目のない支援に繋げていく。

(4) 対象者（利用者）

多胎妊婦を含む多胎家庭（岐阜県在住者を中心に県外在住者の希望者にも対応。里帰りの方も利用可能）

(5) 内容（支援の概要）

①支援法:利用者宅で、育児経験者としての傾聴と育児アドバイスをおこなう。

- ・ 妊娠期から育児期の多胎家庭を対象として家庭等を訪問し、相談を受ける。
- ・ 利用者は県内在住者であるが、希望があれば県外でも実施。
- ・ 1 回の利用時間は、1.5 時間位である。
- ・ 利用者によっては、保健師がマッチングに配慮して勧奨することもある。
- ・ 利用者によっては本人に確認の上、保健師と同行訪問することもある。

②対象者の利用負担 なし

③利用の周知

保健センターや病院でチラシを対象者に配布、自団体ホームページにチラシを掲載。自治体の事業に参加の際にチラシを配布。

④利用方法

NPO 法人ぎふ多胎ネットに事前予約。どんなサポーターが良いか希望することが可能。(例 上の子がいる人、男女の双子を持つ人など)

- i. 申込書に必要事項を記入して FAX や郵送で申し込み。NPO 法人ぎふ多胎ネットホームページのメールフォームからも申し込み可能。
- ii. NPO 法人ぎふ多胎ネットより確認の連絡後にサポーターを派遣。

#### (6) 事業実施者

NPO 法人ぎふ多胎ネット

#### (7) 事業経費の財源

各種助成金ならびに自主財源

#### (8) 事業化に至る経緯

- ・ 平成 16 年、17 年に、訪問によって育児困難についてヒアリングするという手法で多胎児親のニーズ調査を行った。
- ・ その際に対象者が元気になった経験からこれを続けたいと考え、平成 18 年に開始した。
- ・ ぎふ多胎ネットとして最初に取り組んだ事業である。

#### (9) 事業実績

- ・ 訪問事業を開始した当初は 40 件位の利用であった。平成 28 度実績は県内で 39 件。
- ・ NPO 法人ぎふ多胎ネットの事業として、病院訪問やプレパパママ教室、健診サポートなど、切れ目ない支援を展開することで個別訪問の件数が減少していたが、この 2 年くらいはまた少し増加している。その理由として、専門職との連携により、周知が徹底されてきたこと、産後鬱や精神疾患等複雑な問題を抱えた人のサポートも可能になったこと等が考えられる。
- ・ 何年にもわたる継続的な利用者もおり、中には最高で延べ 10 回以上の利用者もいる。

#### (10) 訪問支援者の資格

- ・ NPO 法人ぎふ多胎ネット主催のピアサポーター養成講座(2.5 時間×2 日間)の修了者
- ・ サポーターになった後は、年間 3 回の研修会(フォローアップ、事例研修、事業評価会)を受講する。3 回の研修のうち 2 回を受講しないとサポーターの資格が失効となる規定を設けており、NPO 法人ぎふ多胎ネットとしてサポーターの質の担保を図っている。
- ・ コーディネーター養成講座を別途実施している。
- ・ コーディネーターの資格条件もサポーターに準じている。
- ・

### 3) 連携 (本事業についての連携機関・団体・個人)

地方独立行政法人岐阜県立多治見病院 独立業法人国立病院機構長良医療センター  
岐阜県保健医療課 岐阜県内の保健所および市町村保健センター

### 4) 訪問支援者

#### (1) 訪問支援者に求められる資質およびスキルと思われるもの

- ・ 寄り添い力、傾聴力。自分の話はあまりしないこと。聞かれたことを話すことはある。
- ・ どんな人でも人権を尊重し、受け入れる力。
- ・ 医学的なことはむやみに答えないようにし、医師や助産師に繋げる判断力。
- ・ 報告義務、守秘義務を遵守できること。

- ・ 対象者の状況の整理ができること。その上で必要に応じてリスクマネジメントについてコーディネーターやスーパーバイザーに相談できること。
- ・ 組織の一員としての自覚と自負が持てること。

## (2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修

- ・ NPO 法人ぎふ多胎ネットが主催。
- ・ 講師は様々で、理事や、社会学者、保育士、看護大学の教員など。
- ・ 助成金で費用を賄う
- ・ 訪問支援の活動時は、コーディネーターとサポートの2人体制とし、コーディネーターは、サポーターを支援する役割としている。OJT で、サポートの仕方をフォローし、助言し、サポーターの悩みを聞く。

## (3) 訪問支援にかかわる保険・交通費

- ・ 全国社会福祉協議会のボランティア保険をサポーター全員にかけている。1人 350 円×約 90 人

## 5) 効果

### (1) 対象者（利用者）にとっての効果

<平成 25 年度発行 NPO 法人ぎふ多胎ネット「ハートフルブック」より>

- ・ まさか自分が双子を妊娠するとは思っていなかったので不安でいっぱいでしたが、お話が聞けて前向きになれました。
- ・ お話をしているうちに改めて自分の生活を見つめなおすことができ「今を大切にしよう」「もっと周りに感謝しよう」と思えました。
- ・ 外に出るのが大変なので、家に来てもらえるのは嬉しかった。
- ・ 話を聞いて貰ってストレス解消になったのか、その日は子ども達に優しく接することができました。すると子どももぐずぐず言わず、いいリズムができることが分かりました。それから自分をコントロールすることができるようになりました。すごいピア効果です。
- ・ お風呂の入れ方や同時授乳のやり方を一緒にやってみてくれてよく分かりました。今日から頑張ってみます。
- ・ やっぱり経験者はすごい。

### (2) 支援団体にとっての効果

- ・ どの活動も多胎のことを専門職や世の中の人に知ってもらえる機会になる。
- ・ 保健師との同行訪問で、家に入れ、その後のサポートも信頼を受けることができる。また、ピアでは聞きにくい健康状態も把握できるので、その後の支援がしやすい。
- ・ 支援をしていくことで、支援をする方も元気になる。自己肯定感があがる。自分の苦労が人の役に立つ。
- ・ 多胎育児特有の不安、寝不足、イライラ、ドタバタなどの育児の経験者が、相談者の状況をよく理解して、気持ちを受容、傾聴、共感することで、相談者が自然と元気を取り戻すのをお手伝いすることが喜びになる。相談で得たノウハウを次の世代の多胎ママに役立たせることで、サポーター自身もエンパワメントされた。
- ・ NPO 法人ぎふ多胎ネットとしていろいろな事業をおこなうことで、スタッフの視野が広がり、社会を変えることのできる社会的な団体に成長できた。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 財源が課題である。
- ・ 人口規模が大きい岐阜市などへの実施については人材面も課題である。

## 7) 今後の方向性

- ・ 多胎家庭に優しい社会はすべての人に優しい社会。
- ・ いろいろな機関と繋がることでこういう支援があるということを知ってもらえる。ぎふ多胎白書を見た、障がいをもつ子どもを育てる保護者の団体から「自分たちも白書を作りたい」という問い合わせがあった。支援の実績と専門職向けの研修プログラムをもっていることで、子育て支援センターの研修会などの講師として呼ばれることもある。
- ・ 財源確保として、現在は、企業会員を募り、企業や他の NPO と連携してイベントをおこない寄付を募ったりしている。活動内容は、ニュースレターで紹介している。
- ・ 新しい企画では、公民館で中学生を対象に、双子の赤ちゃんを借りての育児体験(保育体験)預かり保育を体験した。平成 30 年度は、中学校へ出向いて実施していく予定である。お母さんたちはその間、講座を受講し、リフレッシュや子育て仲間作り、就業支援などをする予定である。
- ・ 双子、三つ子育児には、幼少期だけでなく、節目節目に多胎特有の悩みがある。思春期等、支援の対象年齢を引き上げることを考えている。
- ・ 事業を継続するためには、次世代育成が大事である為、循環型のシステムを構築している。

## 8) その他特記事項

ぎふ多胎ネットとは、岐阜県内全域で、行政職、専門職と多胎育児の当事者である支援者が、それぞれの立場や、得意分野を活かしながら、多胎児家庭の支援をするために平成 18 年(2006 年)に設立された団体。

ふたごちゃん・みつごちゃん  
無料

# ピアサポート訪問

ふたごちゃん、みつごちゃんを妊娠中、または出産されたご家族のみさま、多胎育児経験者の話を聞いてみませんか？

産前バタバタで、どうしたらいいのかな？  
ワタだけなのかな？

周りにふたごを産んだ人がなくて何をどう準備したらいいのかな？

上の子もいるんだけど、大丈夫かな？  
どんな工夫をしたらいいかな。

「ピアサポート訪問」とは？  
多胎児を産み育てたサポーターが2人1組で訪問して、お話を聞いたり、体験をお話したりするサポート活動です。

利用者の声

妊娠中にピアサポートを受けました。まわりには双子を産んだ人はいないし、何をどう準備すればいいのかわからなくて、双子のいる生活もイメージできなかったけど、なんとなく想像がつくようになり、少し安心できました。

里帰り出産だったので、実家の方に来てもらってピアサポートしてもらいました。今は平気なので大丈夫だけど、自分で勝ててよかったと不安でしたが、先輩ママと話をしているうちに、自分なりに何とかできるような気がしてきました。気が楽になりました。地元のリソースも教えてもらったので、帰ったら行ってみようと思います。

うちの子は誰かがいるのですが、ピアサポーターの方たちと共通しているうちに、これっていいんだと思えたり、楽しい気持ちになりました。同じ双子を産んだ人の話が聞けて本当によかったです。



お申し込みは、裏面申込み用紙に必要事項を記入の上、FAX、もしくはメールにてお申込み下さい。

NPO 法人ぎふ多胎ネット  
<http://gifutainet.com/>

多治見市市之倉町 13-83-536

TEL/FAX 0572-24-2322

E-mail [gifu\\_tatinet@livedoor.com](mailto:gifu_tatinet@livedoor.com)

このチラシは、最も新しい公共の増づくりのためのモデル事業「ふたごちゃんみつごちゃん育児応援事業」により作られました。

【C. 当事者団体と医療・行政が連携する多胎支援ネットワークモデル】

6. 地方独立行政法人岐阜県立多治見病院（岐阜県） 「病院サポート訪問」  
—ピアサポーターが出産病院に訪問し、育児のイメージづくりや仲間づくりを支援—

1) 属性

- (1) 団体名（法人格） 地方独立行政法人岐阜県立多治見病院  
(2) 地域の状況（平成 27 年の多胎出生数） 岐阜県立多治見病院の多胎出生数 45 件

2) 事業の概要

- (1) 事業名 病院サポート訪問  
(2) 事業の主たる担当課・担当者（職種）  
産婦人科病棟師長（助産師） 産婦人科外来スタッフ（看護師・助産師）

(3) 事業の目的

多胎育児経験者であるピアサポーターが多胎妊産婦に寄り添い、多胎妊娠の不安や悩みを傾聴することで不安を軽減し、妊娠・出産・育児に前向きに取り組めるようにする。  
院内で多胎の仲間作りの場及び地域の情報を提供する。

(4) 対象者（利用者）

- ・ 入院中のすべての多胎妊婦・褥婦
- ・ 外来およびハイリスク外来に通院中の第3水曜日が受診日の多胎妊婦

(5) 内容（支援の概要）

①支援法

研修を受けた育児経験者による傾聴と情報提供

- ・ 月に1回(第3水曜日)に定期開催
- ・ NPO 法人ぎふ多胎ネットから、サポーター1名コーディネーター1名の2名1組が複数組で来院し、ベッドサイドや外来に分かれて訪問。
- ・ 多胎妊婦・産婦とその家族の話を聞いたり、多胎育児経験を話したり、相談にのっている。妊婦・産婦自身に個人情報をぎふ多胎ネットへ提供してもらい、多胎プレパママ教室や健診サポート等、他の事業の個別紹介も可能。
- ・ 外来通院中の多胎妊産婦の場合、待合室で主に診察の待ち時間にサポーター、コーディネーターと話をする。
- ・ 病棟ではベッドサイド訪問を実施。多胎妊婦同士一緒にの相談や、個別対応、どちらも希望可能。体調等で断ることもあるが、ほぼ全員が毎回利用している。
- ・ 人数は、多い時は8人位。産婦は、妊娠中からかかわってもらっているので、安心して育児のことも尋ねることができる。入院中で特に心配な産婦は NPO 法人ぎふ多胎ネットに連絡して継続的な支援をお願いしている。
- ・ 結果については、毎回報告書をぎふ多胎ネットから病院に提出

②対象者の利用負担 … なし

③利用の周知

外来は外来スタッフ、病棟は病棟クレークが声をかける。次回の案内を掲示する。

#### ④利用方法

外来は外来スタッフ、病棟は病棟クレークに申し込んでおくと、サポーターから声がかかる。

#### (6) 事業実施者

NPO 法人ぎふ多胎ネットへ委託 年間 21 万円

#### (7) 事業経費の財源

病院の独自事業予算

#### (8) 事業化に至る経緯

- ・ 長良医療センターで 2008 年から医師の呼びかけにより、ぎふ多胎ネットへの委託事業である「多胎妊産婦サポート事業」として入院中の多胎妊産婦への多胎育児経験者によるサポートが先行事例として始まっていた。
- ・ 県立多治見病院では、多胎出産が多い。看護というよりも妊娠中から予防的な指導ができないか、多胎妊婦の不安感を軽減するために何かできないかと思っている 2010 年時に、岐阜県立看護大学と NPO 法人ぎふ多胎ネットからの呼びかけがあった。
- ・ 当時プレパママ教室を単胎対象で実施していたが、多胎の出産が多い時期があり、母親の不安感に寄り添うために多胎版のプレパママ教室を始めた。そこに先輩ママを呼ぶようになった。そこから病院訪問に発展的に広がっていった。
- ・ 多胎児の場合、育てることが大変で、双子に特化した支援が必要である。妊娠期からある程度知っておくとその後の育児が違うということが分かり、病院内訪問事業を始めることになった。
- ・ 最初は医師も心配していたが、患者さんの為にも当事者が入ることが大事であると理解してくれるようになった。多胎ネットに聞いてみてというような体制ができています。
- ・ 医師、助産師、多胎ネットでの話し合いはないが、師長(助産師)が間に入り、医者と多胎ネットの報告を両方につなぐ役割を果たしている。
- ・ 多胎ネットの報告書を師長経由で医師が閲覧し、情報を共有している。

#### (9) 事業実績

- ・ 入院患者のほとんどが利用。少ない時で2~3人、多い時は8人位。外来も当日受診予定の方はほぼ全員利用している。

#### (10) 訪問支援者の資格

NPO 法人ぎふ多胎ネット所属のサポーター

### 3) 連携 (本事業についての連携機関・団体・個人)

- ・ 病院で開催する、NPO 法人ぎふ多胎ネット、保健センター保健師との事業評価会で情報交換をしている。
- ・ 必要があれば NPO 法人ぎふ多胎ネットにつなぐことがある。

### 4) 訪問支援者

#### (1) 訪問支援者に求められる資質およびスキルと思われるもの

多胎妊娠、出産・育児の経験、傾聴のスキル

#### (2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修

NPO 法人ぎふ多胎ネットの主催の研修会に一任

### (3) 訪問支援にかかわる保険・交通費

NPO 法人ぎふ多胎ネットが社会福祉協議会の保険を利用

## 5) 効果

### (1) 当事者にとっての効果

<平成 25 年 3 月発行 NPO 法人ぎふ多胎ネット「ハートフルブック」より>

- ・ 双子とわかってから不安がいっぱいでしたが、今日お話が聞けて少し不安が解消されました。初めての子で分からないことだらけなので、これからもいろいろと話が聞きたいです。ありがとうございます。
- ・ 長期の入院で身動きが取れない中、病院サポートはとてもありがたいです。出産～産後の赤ちゃんたちとのかかわり方について、実際に経験された方から話を聞くことができよかったです。来月も楽しみにしています。
- ・ 多胎児ならではの話が聞けて、とても参考になりました。産後の不安もありますが、これからも経験者のお話を聞きながら楽しく子育てできるといいなと思っています。

### (2) 病院にとっての効果

- ・ 妊娠中から先輩多胎ママと知り合うと、有効な情報を得ることができ、産後も安心して子育てに取り組める。病院は退院後の支援に限りがあるので、多胎ネットと繋がることは継続的な支援が可能となりありがたい。
- ・ 現在多胎の 1 か月健診の際には、産婦人科師長も外来へ出向き、自宅へ帰った後の様子を確認している。
- ・ NPO 法人ぎふ多胎ネットと連携が取れていることで支援体制がしっかり整っている。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 病院のスタッフが不足。多胎に興味を持ってくれるスタッフが増えるとよい。若いスタッフにもっと参加を促し、看護的な視点でもっと学んでもらいたいが、人が足りないのが現状。
- ・ まだ出産経験がないスタッフも多い為、ぎふ多胎ネットのサポーターやコーディネーターから学んでほしい。

## 7) 今後の方向性

- ・ 外来の元気な多胎妊婦を見落とさないように多胎ネットに確実につないでいきたい。
- ・ 病院のスタッフとしては自宅に帰ってからのことが心配。多胎の人は全員多胎ネットの人が自宅に訪問して話を聞いてもらえるといいなと思う。父親の話も是非聞きたい。多胎は一人では子育てが困難である。
- ・ 現在父親も入院して家族同伴で双子の赤ちゃんを自宅に迎える練習として、両親で 24 時間同室を経験してから退院している。今後は単胎でも増やしていきたい。

## 8) その他・特記事項

- ・ NPO 法人ぎふ多胎ネット主催のプレパパママ教室に病院のスタッフが参加する。入院している妊婦さんの場合は家族に参加を呼びかけている。



【C. 当事者団体と医療・行政が連携する多胎支援ネットワークモデル】

7. 岐阜県多治見市 「こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問事業・健診サポート事業」

—ピアサポーターが保健師等の訪問時に同行するとともに、乳児健診時に無料で支援—

1) 属性

(1) 自治体名 岐阜県多治見市

(2) 管轄の人口動態（平成 27 年）

- ・人口 113,718 人
- ・出生数 776 人
- ・多胎出生数 14 人(7 組)

2) 事業の概要

(1) 事業名 こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問事業・健診サポート事業

(2) 事業の主たる担当課・担当者（職種） 多治見市 保健センター 母子グループ（保健師）

(3) 事業の目的

【こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問事業】

保健師のこんにちは赤ちゃん訪問時に多胎育児経験者のサポーターが同行し、多胎育児を含む生活相談や多胎育児に関する情報提供、多胎育児スキル等を伝授する。

【健診サポート事業】

双子を抱えたママが安心して健診をうけることができ、待ち時間に先輩ママにアドバイスや相談を受けることで多胎育児負担感の軽減を図る。

(4) 対象者（利用者）

多治見市民の多胎児の保護者

(5) 内容（支援の概要）

【こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問事業】

- ①支援法:保健師のこんにちは赤ちゃん訪問時に多胎育児経験者のサポーターが同行し、傾聴と体験談者ならではの生活面や育児の見通し等のアドバイスをを行う。
- ②対象者の利用負担 … 無
- ③利用の周知:保健師がこんにちは赤ちゃん訪問の連絡時にサポーターが同行することの了解を取る。
- ④利用方法:利用者は、保健師からのサポーターの同行連絡を了承すると、利用できる。

【健診サポート事業】

- ① 支援法:4 か月児、10 か月児健診会場での多胎育児経験者のサポーターが同行しサポートする。  
駐車場から健診の全行程に付き添う
- ② 対象者の利用負担 … 無
- ③ 利用の周知:
  - ・ 母子手帳交付時、新生児訪問時等に保健師がお知らせする。
  - ・ こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問時に、チラシを用いて説明する。

- ④ 利用方法:利用者が事業実施者のぎふ多胎ネットに直接申し込みをする。TEL、メール、郵送での申し込み、ぎふ多胎ネットから、待ち合わせ場所・時間を連絡する。

#### (6) 事業実施者

- ・委託有
- ・委託事業者:NPO 法人ぎふ多胎ネット

#### (7) 事業経費の財源

【こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問事業】

子ども・子育て支援交付金(乳児家庭全戸訪問事業)

【健診サポート事業】

多治見市の一般財源

#### (8) 事業化に至る経緯

- ・平成 24 年に県の補助事業として多治見市で開始。
- ・平成 25 年から市の事業として、委託事業に切り替わり現在に至る。
- ・ニーズがあるので継続している。

#### (9) 事業実績

27 年度の年間利用

【こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問事業】 6 件

【健診サポート事業】 4 か月健診 4 件、10 か月健診 6 件

1 年間に生まれる多胎の数で、年毎の実績が違う。利用率 100%ではない。7~8 割は利用されている。

#### (10) 訪問支援者の資格

- ・双子の親であるということだけで特別な資格は必要ではないが、傾聴のスキルが必要。
- ・市民からどういふ方に来てほしいという要望を聞くことはない。
- ・新生児訪問(こんにちは赤ちゃん訪問)は、市の母子保健推進員として委嘱されているぎふ多胎ネットスタッフが担当している。

### 3) 連携(本事業についての連携機関・団体・個人)

- ・赤ちゃん訪問事業、健診サポート事業の 2 事業については、NPO 法人ぎふ多胎ネットと市で連携。
- ・赤ちゃん訪問の後、サポーターの報告書を提出してもらい、情報を共有している。
- ・母子保健推進員(母子保健推進員に多胎ネットスタッフが在る為、双子の場合はその人が対応する。)

### 4) 訪問支援者

#### (1) 訪問支援者に求められる資質およびスキルと思われるもの

- ・傾聴するスキル。医学的なことや専門的な相談は保健師につなぐ姿勢。

#### (2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修

NPO 法人ぎふ多胎ネットが実施

#### (3) 訪問支援にかかわる保険・交通費

NPO 法人ぎふ多胎ネットに交通費、保険も込みで委託

### 5) 効果

## (1) 利用者にとっての効果

＜平成 25 年 3 月発行 NPO 法人ぎふ多胎ネット「多胎児家庭のためのハートフルブック」より＞

- ・ 同じ双子のママの先輩としていろいろなお話ができてよかったです。まだ話したりないくらいなので、またこのような機会があればお願いしようと思いました。(4 か月児ママ)
- ・ 上の子の世話などで特に悩むことがあったけど、みんな同じようにやってきたのだということが分かって安心しました。(4 か月児ママ)
- ・ 普段から話せる人もいませんし、また育児の悩みは時間が経つと解消するものなので。相談することもないと思っていましたが、サポートしていただき、話を聞いていただくことでとても楽になりました。(10 か月児ママ)
- ・ 自分だけで育児をしていると、これでいいのかと思うことが多くて悩んでいましたが、同じ体験をされたママの話を聞くと、すごく楽になりました。こういう機会がもっとあればいいのにと感じました。(10 か月児ママ)

## (2) 行政側にとっての効果

- ・ 健診に一人で双子を連れてくるのは大変なので、ずっと一緒にいてくれることで、利用者が安心して受健できる体制となっている。
- ・ 実践的な多胎育児のアドバイスをして頂けるのはありがたい。役に立つし、効果が高いと思う。
- ・ 自宅訪問の報告書では、視点が保健師と違う面もあり、視野の広い情報の共有になっている。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 現行の利用回数は1家庭につきこんにちは赤ちゃん訪問1回、4 か月児健診、10 か月児健診の2回合計3回となっている。多胎家庭の中でも若年・障がい・貧困・精神疾患・育児負担感が強い・手助けしてくれる人が身近にいない等の家庭の場合、更にきめ細かいフォローが必要である。
- ・ 多胎サークルへの勧誘は、訪問時は日々の生活に精一杯で受け入れに時間がかかることもある。産婦人科病棟での面談は、予告なしに訪問を受け印象を悪くした人もある。せっかくの有益な支援団体なので、必要なときにつながることでできる工夫があると良いと思う。意外と不安が強い人ほど、利用を遠慮されているように感じる。

## 7) 今後の方向性

- ・ 今の事業は有効だと思っているので今後も継続して NPO 法人ぎふ多胎ネットでやっていただけるとありがたい。市民からは、もっとこうして欲しいという要望は届いていない。
- ・ 子どもの健全な発達の為に、育児不安が強い等、育児に課題があるが支援の拒否がある家庭を子育て支援のサービスにうまくつなげていきたい。多胎家庭をはじめ、育児課題を抱えた家庭の支援は、保健師として専門職の責務を果たしながら、地域の医療関係者・保育士・子育て支援関係職や多胎ネットのような民間の NPO 団体等と連携を図って生活の包括的な支援につながるようにしたい。

## 8) その他・特記事項

- ・ 多治見市では、母子保健、子育て支援、教育委員会の3つの機関が同じフロアにあるので虐待のケースが疑われる場合などは、直ちに連携し協力しあっている。

### 〈切れ目のないピアサポートの支援を利用して〉

NPO法人ぎふ多胎ネットでは、妊娠中からの切れ目のない支援を目指して、ピアとして行政や病院と連携して訪問支援を行っている。病院サポート、こんにちは赤ちゃん訪問、健診サポートを利用したMさんより感想を聞いた。

Mさん 5歳男児(年長)、2歳半女児双子の母親。

#### ① 利用した事業の概要

- ・ 県立多治見病院での病院サポート、3~4回 外来受診時や管理入院中の話し相手
- ・ 多治見市新生児訪問時のピアサポーター同行訪問、
- ・ 多治見市健診サポート
- ・ 対象者の利用負担 … なし
- ・ 母子健康手帳交付時の保健師の面接時にチラシで説明を受け、病院サポート時や新生児訪問時にサポーターからも説明を受けた。申し込みは、FAXやメールで行った。

#### ② 訪問支援者について(必要な資格などと思われること)

- ・ 皆さん双子のママと聞いていたので安心した。他の資格の有無は関係ない。
- ・ サポーターの方は同じ方ではなく、別々の方だったが、ただいてくれるだけでよかった。どの方も話をしっかり聞いてくれた。保育スキル、託児スキルとかないと困ると思ったことはない。とにかく話を聞いてくれて嬉しかったので、傾聴のスキルがあればよいと思う。手が足りないところを手伝ってくれたのも助かった。
- ・ こちらからは、特に何も求めなかったが、双子先輩ママたちなので、自分がしてほしいことをやっているのがよく分かった。

#### ③ 効果

- ・ 実際の話が聞けてよかった。上の子がいるので、赤ちゃんの育ちは分かっているつもりだったが、時間の使い方が分からず、上の子の時のようにマンツーマンで対応することができないが、今自分がやっていることが間違いではないと話を聞いてもらえて確認できてよかった。
- ・ 双子として育った人が「双子だったことで嫌だと思ったことはない」という話を聞いて安心した。ホッとした。
- ・ 健診に連れて行っても必ずしも手伝ってくれる大人がそこにいるわけではない。一人で4か月の首が座ったばかりの赤ちゃんを2人連れていくのは不可能である。どうしたらいいのかも分からない。それを手伝ってくれるそれだけでも効果がある。
- ・ 保健センターの駐車場で待ち合わせをしてくれたことで、健診を受けるハードルが下がった。赤ちゃんが1人の方はスムーズに健診が進み、他の母と喋ったりするが、2人連れていくと他のお母さんと喋る余裕もなく疎外感を感じるので、一緒にいてくれて助かった。
- ・ 小さいうちは家から出ることがしんどく怖い。10か月健診もサポートを利用したが、もしかしたら自分一人でも連れて行くことはできたかもしれない。4か月健診よりはだいぶ外出しやすくなっていた。

#### ④ 今後の希望

- ・ 家庭訪問は、早めに申し込みが必要で、日にちをすり合わせている間に気持ちが落ち着いていることがある。今困って要るその時に利用したいし相談したい。メールや電話でも良いので、ちょっといつでも聞ける場所があるといいなと思う。他人を家に招くハードルもある。実家に長くいることも多いし、その場合は、家族の許可も必要になる。
- ・ 健診サポートは今、10か月健診までしかないもので、1歳以上でもあるといいなと思う。歩き出したばかりの双子を連れて行くのもとても大変である。うちの場合は女の子で比較的じっとしてくれたから何とか連れていけたが、元気いっぱい動く子どもの場合は大変だと思う。
- ・ 予防接種の時のサポートもあるといいなと思う。どこまでが母親のわがままかとも思うが、あると助かる人は多いと思う。
- ・ いろいろな説明会とかも双子を連れて一人で行きにくい。実家が頼れない人も多いので、一緒に行ってくれる人がいるといいなと思う。(学校の説明会、保育園の説明会など)
- ・ 市や児童館の親子参加の講座とかも双子を連れて行きにくい。お兄ちゃんの時は行けたのに。1歳半をすぎないと双子を連れていけない。先生たちは助けてはくれるが、ずっとサポートしてくれるわけではない。結局すべて自分でやらないといけないので頑張って連れて行ってもかえって疲れることになる。
- ・ また、周りの雰囲気も2歳を過ぎると周りももう大丈夫という目になるが、保育園、幼稚園に入れるようになるまでは大人がもう一人いるといいなと思う。実家が近くない人はどうやっているのだろうかと感じる。外出のサポートは、無料でなくてもいいのでワンコイン位なら助かるし利用したい。

- ・聞きたい時に悩みを聞いて欲しい。双子のことで困っている時、専門家に相談してもよい答えが貰えない場合がある。多胎の育児教室(半年に1回)が楽しみだった。託児もあるし、ゆっくり喋れてよかった。
- ・多治見市で双子を妊娠出産、ぎふ多胎ネットがあるということが本当にありがたい。他の地域に転勤で引っ越しをした方がその地域には何もサポートがないと嘆いていた。改めて感謝している。

⑤その他・特記事項

- ・ピアサポーターの赤ちゃん訪問は利用せず、多胎ネットの育児教室を利用してそこで相談にのってもらい悩みを解決した。
- ・新生児訪問のみ家庭訪問は利用した。その後は多治見市多胎育児サークル「みど・ふあと」に参加したので、ピアサポーターの家庭訪問は利用せず、多胎ネットの育児教室を利用してそこで相談にのってもらい悩みを解決した。駐車場までお迎えに来てくれるのも助かった。自分は、実家も近かったので、SOSも出し、助けてもらいやすかったが、実家が遠い人は家庭訪問があると助かると思う。



【D. 民間の支援団体が主体の支援】

8. 京都府助産師会（京都府） 「多胎妊婦・産後家庭訪問」

—助産師の専門性を活かし、多胎妊産婦のニーズに応えた訪問の支援—

1) 属性

(1) 団体名 公益社団法人 京都府助産師会

(2) 団体の状況

京都府全域を活動地域とし、京都府内の助産師 264 人が登録している。おっぱいケア、計測、相談、講座、交流会などを開催。対象も母親や妊婦だけでなく、祖父母、男性、中高生、妊娠を望むカップルなど多岐にわたる。また、訪問や出張講座なども開催している。

京都府	人口	2,610,353 人
	出生数	19,644 人
	多胎出生数	213 組 三つ子 2 組 (平成 27 年)

2) 事業の概要

(1) 事業名 多胎育児支援事業の中の「多胎妊婦・産後家庭訪問」

(2) 事業の主たる担当者 京都府助産師会のえんどう豆の会メンバー 8 人(助産師)

(3) 事業の目的

多胎妊婦、多胎育児者への家庭訪問により、母体や赤ちゃんの健康相談、多胎育児のスキルの伝授、生活支援をすることで、多胎妊婦や多胎育児者の不安や育児困難感、孤立感の軽減と母子の健康増進を図る。

(4) 対象者 京都府内の多胎妊婦、多胎育児者

(5) 内容（支援の概要）

①支援法:妊娠中で体調が悪く京都府助産師会主催の多胎妊婦教室に参加できない人や個別相談したい人に対して、家庭訪問等で、妊娠・出産・育児相談や授乳相談、情報提供などの支援をする他、日常生活全般の支援を行う。

支援例

- ・ 母体の回復などの健康相談、おっぱいケアや赤ちゃんの発達相談
- ・ 具体的な授乳指導や双子の授乳リズムの整え方の相談などの育児相談
- ・ 家事や育児時間の割り振り方など生活支援
- ・ 一緒に外出するなど外出支援(一緒に多胎サークル・子育てひろば・児童館などへの外出の他、買い物に行くなどの生活支援)
- ・ 訪問先で赤ちゃんを託児し、母親の睡眠時間の確保(体の回復サポート)

利用回数 妊娠中から何度でも利用できる。

②対象者の利用負担 29 年度は先着 20 名までは 1 回 2500 円。その後は 1 回 5000 円

③利用の周知

京都府内の多胎出産を扱う病院、保健センターにチラシを置き、周知してもらっている。また、助産師会のメールリストでも周知している。

④利用方法

希望者はチラシに掲載されている電話、FAX、メールで直接申し込むことで利用できる。

(6) 事業実施者 京都府助産師会

(7) 事業経費の財源 京都府助成金と利用者の利用料

(8) 事業化に至る経緯

多胎支援に関しては25年ほど前に京都府が多胎出生数第1位になったところ、京都大学病院の産婦人科医師を中心としたメンバーが「多胎はリスクが多いのにフォローできる病院がない」ということで「多胎妊婦教室」を始めた。その後、京都第二赤十字病院も加わり「えんどう豆通信」を作り行政に配るなどの支援をしてきた。訪問については教室に参加した母親からのニーズに応える形で5～6年前から始めた。

(9) 事業実績

- ・ 現在も多胎妊婦家族を対象とした「えんどう豆ちゃんたちのファミリー教室」を年間3回開催しているが、その約半数から訪問の依頼がある。
- ・ ファミリー教室への参加者は年間10人ほどなので、訪問は年間5人ほど。

(10) 訪問支援者の資格

京都府助産師会のメンバー（えんどう豆の会のメンバーでなくても訪問先の近くの人に行ってもらえる）

3) 本事業についての連携機関・団体・個人

- ・ 京都府内の保健センター、NICUのある病院でチラシを配布してもらっている。
- ・ 京都市は初産妊婦とハイリスク妊婦にプレママ訪問や赤ちゃん訪問を実施しており、この時に保健師から広報してくれる時もある。
- ・ 病院で出産後に母親が育児練習入院をすることがあり、ここに呼ばれることもあるので、その時に案内する機会も持てる。

4) 訪問支援者

(1) 訪問支援者に求められる資質およびスキルと思われるもの

助産師として多胎支援に関心があること（えんどう豆の会は、そうしたメンバー）

(2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修

えんどう豆の会で年間4回会合を持っているので、その時に情報提供し合う。また、そのうち年2回は事例検討会をしている。

(3) 訪問支援に関わる保険・交通費 事業費から拠出

5) 効果

(1) 利用者にとっての効果

安心してもらえる。睡眠不足の人は体を休めて回復してもらっている。外出練習は実際に付いて外出することで、一人で行けるようになったり、そこで出会った人から別の子育て広場など外出先を紹介してもらえたりする。また、その後、無料の電話相談に繋がり、継続的に相談ができる。「ツイズメールマガジン」にも登録でき、多胎情報を受け取ることができる。

(2) 支援団体にとっての効果

多胎についてはお母さんたちから実体験を聞くことで学ばせてもらっている。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 他の機関との連携がうまく取れていないため、利用者が増えない。
- ・ 病院や保健センターなどで、もっと紹介してもらえたり、赤ちゃん訪問を委託してもらえたりすると、さらに広がると思う。また、妊娠中のプレママ訪問を委託してもらえれば、妊娠中から家族に関わることができ、さらに効果が期待できる。
- ・ 保健センターからも多胎についての講師として呼んでももらえるところもあるが、京都市内で毎年2～3カ所ずつとなっているため、広がりが遅い。また、宇治や伏見ではお母さん向け個別相談に年間2～3回呼んでももらえるが、こうしたことも今後増やしていきたい。
- ・ 病院とは育児練習入院の時に呼んでももらえるという連携がもっと増えるといいと思う。

## 7) 今後の方向性

- ・ マンパワーと予算の関係で「えんどう豆ちゃんたちのファミリー教室」や「多胎妊婦・産後家庭訪問」は平成29年度限りで見直しをし、「ハイリスク訪問」として多胎に限らず、もっと枠を広げた形にする予定。
- ・ 多胎妊婦さんのためにも、妊娠中、産後、育児中の方も集まれる交流会形式にして、もっと気軽に自由に参加してもらえる形にし、参加者を増やしたい。

## 8) 特記事項


「えんどう豆ちゃんたちのファミリー教室」について

- ・ 本プログラムは、助産師からの多胎妊娠の注意点(20分)、先輩ママの体験談(30分)、交流会となっている。託児付き。里帰りの人も受け入れている。
- ・ 先輩ママの体験談は訪問支援の利用者の中から助産師が声をかけたりメルマガで募集したりしている。ふたご年齢は小学2年～4か月児までとさまざま。1回に1人お願いしている。
- ・ 教室の参加費は2000円。同伴家族は1人1000円。京都府助産師会館1階で開催している。

公益社団法人 京都府助産師会  
多胎育児支援事業

# えんどう豆の会

多胎家族の仲間づくり、情報交換、個別訪問など、ふたご・三つ子の妊娠・出産・育児をサポートします。また、小さく生まれた赤ちゃんや育児に心配のあるご家庭への支援をしています



●えんどう豆ちゃんたちのファミリー教室●

**日時:平成29年6月24日(土)**  
**平成29年10月21日(土)**  
**平成30年2月17日(土)**

**10:00～12:00**  
場所:京都府助産師会館  
参加費:2000円(資料込)、同伴家族1000円

●多胎妊婦・産後家庭訪問●●小さな赤ちゃん支援訪問●

妊娠中で体調が悪く教室に参加できない方、個別相談したい方、  
出産後の育児相談、授乳相談など。


**訪問料:先着20名様は2500円(通常は5000円)**

●ツインズメールマガジン配信●

京都の多胎妊娠・出産・育児情報を無料提供  
ツインズ通信(多胎情報誌)をホームページに掲載しています

**申込み方法: 京都府助産師会 HP「事業案内」→「えんどう豆の会」よりお申し込みください。  
訪問は、お電話・FAX・メールにてお申し込みください。**

<公益社団法人京都府助産師会>  
〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町33-1  
(075)841-1521  
kyoto-midwife@ray.ocn.ne.jp





## 【D. 民間の支援団体が主体の支援】

### 9. 認定NPO法人おやこの広場あさがお（石川県白山市）「訪問型子育て支援ホームスタート」 -地域から孤立しがちな子育て家庭を、傾聴と協働で支える地域ボランティアによる訪問型子育て支援-

#### 1) 属性

(1) 団体名（法人格） 認定NPO法人おやこの広場あさがお

(2) 地域の状況（平成 27 年）

石川県 白山市

- ・ 人口 109,287 人、
- ・ 出生数 887 人
- ・ 多胎出生数 : 母子手帳交付数 双子8組、三つ子1組

#### 2) 事業の概要

(1) 事業名 訪問型子育て支援ホームスタート

※ホームスタートとは、地域のボランティアが子育て家庭に訪問し、週に1回2時間程度、「傾聴(お話を聴く)」と「協働(一緒に過ごす、活動する)」をする訪問型子育て支援

(2) 事業の主たる担当課・担当者（職種） 白山市こども子育て課

(3) 事業の目的

孤立しがちな子育て家庭を訪問によって支援し、傾聴と協働によって育児負担感の軽減と養育者のエンパワメント(自信の回復やその人が本来もっている力をひきだすこと)を図る。

(4) 対象者

- ・就学前の子どものいる家庭。当団体では妊娠中も可。
- ・ホームスタートの支援を利用したい意思がある人
- ・利用は市内、市外を問わない。近隣市からの利用も可

(5) 内容（支援の概要）

##### ①支援法

定期的に家庭を訪問し「傾聴(お話を聴く)と協働(一緒に過ごす、家事や育児をする)」をする。

- ・ オーガナイザーとよばれるコーディネーター役が、利用者のニーズについてよく聴き、訪問支援する地域ボランティアであるホームビジターと連携して支援する。
- ・ ホームスタートは一般的には「週に1回2時間程度、4回を目安にビジターが訪問する支援」だが、本団体内においては、多胎家庭は通常家庭の倍の訪問回数になることが共通理解されている。

②対象者の利用負担 …… なし

③周知

- ・ 団体の HP や団体事業施設での声かけやパンフレットでの案内
- ・ 協力団体への周知の依頼
- ・ 行政等関係機関との連携による周知(母子健康手帳の交付時、赤ちゃん訪問時等)
- ・ 利用したお母さんたちからの口コミ

④利用方法

- ・ 利用者が記入した「利用申込書」による申込み(「この支援を使いたいです」という意思表示を利用者本人にってもらうことによって、家庭に入っていく窓口が開かれる。)

(6) 事業実施者 認定 NPO 法人おやこの広場あさがお

(7) 事業経費の財源 白山市の受託金より、研修費、運営費、交通費などおよそ 200 万円

(8) 事業化に至る経緯

- ・ 拠点事業開始 2002 年、ホームスタート開始 2015 年、利用者支援事業開始は 2017 年
- ・ 拠点事業を始めてからずっと課題だったのは、「広場があるけど、出て来られないお母さんたちっているよね」というところ。なかなか解決ができない部分だった。広場事業の中でも、支援が必要なお母さんたちと接触していくと、「どうしても行ってあげないといけない」ということが起きる。心配なので行くけれど、事業としてではなく「自分たちだけの責任」でしか関われないままだった。しかし自分たちが訪問できるスキル、仕組みをもつことがこれからは大事だと考え、団体事業としてのタイミングも見計らって、2015 年から開始した。

(9) 事業実績

- ・ 事業開始 2015 年9月から 2017 年 10 月までのホームスタートでの訪問家庭の 76 件の内、のべ 14 件が多胎家庭(全体の 18%) (※注:ホームスタートでの訪問全体では約8%が多胎家庭)
- ・ 支援の充足度については、基本のホームスタート(就学前のお子さんのいる家庭)は 95%、産前のホームスタート(妊娠中から)は 82%である。(2017 年 11 月現在)

(10) 訪問支援者の資格

- ・ ホームビジター養成講座(37 時間)の受講修了者(原則として子育て経験のある人が参加する)

3) 連携 (本事業についての連携機関・団体・個人)

- ・ 白山市子ども子育て課・健康センター松任いきいき健康課(保健センター保健師)
- ・ 白山市子ども相談室・発達相談センター
- ・ 小児科医、助産師、産院
- ・ 民生委員児童委員 主任児童委員
- ・ NPO 法人いしかわ多胎ネット
- ・ 多胎サークル

4) 訪問支援者

(1) 訪問支援者に求められる資質およびスキルと思われるもの

- ・ 多胎家庭だからといって特別視せず過度に意識しない人。専門性や大変さへの思いやりを内側ではもっていても表に出さない人。過度に意識せずに、双子ちゃんの成長なども含めて家族と一緒に楽しめる人。
- ・ 利用者の気持ちも汲みながら手も動かすことができるビジターが担当になることが多い。大変さを理解したうえでかかわってもらうことを大切にしている。
- ・ 支援が長期になることも踏まえ、時間的にも気持ちの上でも融通の利くビジターが担当することが多い。

(2) 訪問支援スキルの維持向上のための研修

- ・ ホームスタートとしてのスキルアップは、外部研修なども含めて年 4~5 回
- ・ 多胎のためのスキルアップ講座は年に 1 度。

(3) 訪問支援にかかわる保険・交通費 (有無・保険団体)

- ・ 保険:ボランティア保険(団体として)
- ・ 交通費の支払い:1回の訪問につき一律1000円

## 5) 効果

### (1) 対象者(利用者)にとっての効果(利用者のインタビューを本報告の最後に紹介)

### (2) 支援団体にとっての効果

- ・ 訪問はすごく大事だと実感している。家庭へ訪問するという事は単に話を聞きに行くだけではなく、日常の暮らしぶりを肌で感じられる。ゆっくりと家庭で話を聴くことで、その人の困りごとの一番言いたいことが何なのかピンとくる。ホームスタートの仕組みによって、利用者のニーズに添って応えられると感じる。
- ・ 多胎家庭の支援は一般の家庭に比べて、母親以外の家族が訪問したその場にいることが多いのも特徴の一つ。家族それぞれとも会話しながら、家庭全体を支えていく支援になろうとする「家族支援」という意識が団体の共通理解になってきた。
- ・ 利用者支援事業でホームスタートを行うことによって、ベースに「寄り添い」がありながら、専門職や関係機関とも連携した支援ができるようになった。たとえば、アセスメントによって助産師の意見が必要なときは、ビジターの訪問の途中でも助産師に訪問に入ってもらえるよう依頼したり、当事者の先輩に聞いてみたいことがあるときなどは「先輩ママならいしかわ多胎ネットにお願いして、一緒に訪問してもらおうかな」というように、訪問の支援の中にさまざまな連携をタイミングよく組み込むことができる。
- ・ 訪問することによって日常の困難感や実情がよくわかり、それに特化した目線とか視点でプログラムを考えて拠点事業に反映させている。さらにそれによって子育て家庭や同じように支援する団体とつながっていくことができた。双子ちゃんにはこういうプログラムをやってみようかとか、発達心配があるお母さんたちにはこういうのをやってみたらいいんじゃないかな、転入したお母さんたちは出るのが難しいからこういう支援が必要じゃないかなというように、特化したプログラムを発案し、内容を充実させるために他団体と連携したことによって、団体同士の連携が強くなって活動が広がった。

## 6) 事業展開にあたっての課題

- ・ 実際の事例検討を重ねていくことで、必要な機関連携が深まるため、定期的な担当者会議やケース会議の持ち方が課題となってくる。行政や専門機関と会議を持つにあたっては、民間も専門用語等の知識の習得も必須である。
- ・ お母さんたちが求めている支援についてバリエーションやオリジナル性を充実させ、「これで大丈夫」という提供の仕方がしっかりとできていくようにしたい。

## 7) 今後の方向性

- ・ 団体事業全体を通して、多胎などを含むあらゆる育児に配慮できる支援事業を展開していきたい。

## 8) その他・特記事項

当該団体はその他に以下の事業も行っており、それぞれの事業を連携させながら多胎家庭支援に力をいれている。

- ・ 地域子育て支援拠点事業
- ・ 利用者支援事業

- ・ 一時預かり事業
  - 多胎ファミリー利用料金の設定を特別に家族単位にしている。料金の負担が大きい、預ける際の準備が大変、予約していても本当にその日に行けるか心配(二人とも体調がよいかわからない)など、利用しにくい原因がある。もっと気軽に利用してほしいと考えたため。
- ・ 多胎プレパママ教室 (いしかわ多胎ネットとの協働事業)
- ・ 親支援プログラム(NP:ノーバディズパーフェクト・BP:ベビープログラム)
- ・ 多胎サークル支援

## 9) 利用者の声

### 利用者 A さん(双子が6か月時に利用し2歳4か月時に再度利用)

- ・ 産後は実家にいたが、アパートに戻ったあとに一人で二人をみるのがつらくなった。二人同時に泣き始めると「ああ、どうしよう、どうしよう」という気持ちになる。1週間のうち2日は母が手伝ってくれていたが、母が帰ると泣かれることも多く心細かった。
- ・ 7か月くらいからホームスタートを使うことにした。初めは母がいない時間に子どもの世話を手伝ってもらいたいという気持ちで利用したが、だんだん話し相手として来てもらうのが楽しみになっていた。一人ずつ育てている同級生に予防接種で会ったとき、「今からお茶しよう」って誘われたけど「二人を連れては絶対ムリ」と思って一緒に行くことができなかった。全く誰とも会わず、夫と母とだけで育児していたので、ビジターさんが来てくれて、話し相手というか友達ができみたいで嬉しかった。
- ・ ビジターさんは双子の母親ではなかったけれど、逆にそれが楽しかった。全然違う話ができ、ビジターさんの趣味の話やイベントの話、テレビドラマの話など、育児と違う話ができ、「何かを取り戻した」という感覚になってきた。「本来こういう感じだよな」と思えた。子どもがいないときの職場の昼休みみたいな、友達と遊んでいるような。
- ・ ビジターさんが来た日は、夫に話すことができた。毎日子どもたちのことばかり「今日はこんなんやった」「今日も大変やった」「もう疲れた」「今日も疲れた」「なんでもっと早く帰ってこれんかったん」…。仲が悪いわけではないのに余裕がない毎日でそんなことばかり言っていたのに、ビジターさんが来てくれるとビジターさんと話したことを夫に話せたりして、それで夫婦の間でも会話ができて笑顔が戻ったりした。
- ・ 保育園の一時保育も考えたが少し抵抗があった。自分が見えていないところで何かが起こったらどうしようという気持ちもあった。ホームスタートだと、まるまる預けてしまうのではなくて一緒に子ども達を見ていられるのがよかった。
- ・ 利用を1度終えたのだが、その後またホームスタートを利用した。子ども達を外に連れて出たいけれど、一人で二人を見るのがたいへんで母に来てもらうのだが、それがストレスに感じるようになってきて。公園や児童館に行くときにビジターさんと一緒に行ってもらった。最初に一人で行こうと思うと「どんなところかわかんないし、どうい対応してもらえるかもわかんないし、やめとこうかな」と思うけど、ビジターさんと一緒ならば心強い。でもだんだん一人でも広場に行けるようになったし、母との距離も保ったままホームスタートも使わずに、できるようになってきた。
- ・ 母もビジターさんがきてくれるから安心して仕事に行けると言っていたし、夫も私に友達ができほっとした感じだった。
- ・ ただ、もっと来てほしいと思ったこともあった。「1週間に1度2時間」と言わずに。それに約束しても、そのときどうなっているかわからない。3時に約束してもやっと眠ったところで、ビジターさんが「ごめんね、私帰ろうか」みたいになったり。調整が難しい。
- ・ ホームスタートではないが、産んだすぐの頃に、双子のお母さんの助産師さんが「おっぱいマッサージ」に来てくれた。無料だったか500円だったかで、自宅で2回受けられると言われて気持ちが楽になった。そのあとも困ったことがあるとすぐに相談できるようになった。病院とかに行こうとすると、前の晩から出かける準備が始まって「旅行か?!」というような大量の荷物だし、いざ出かけようとする、おっぱいだ、ウンチだ、それが2人同時で。やっと病院に行けても自分が受診している間に誰が二人を見るのか、ということになる。でも来ていただけるので、何も別に準備しなくてもよかった。
- ・ こういう訪問の情報をもっと知っておきたいと思った。赤ちゃん訪問などで、資料をたくさん渡されるが読めない。一人が眠っていても一人が起きてると、たくさんの中から自分に合っている情報を探すことなんてできない。

- ここでは妊娠中から「多胎のプレパパママ教室」があって、仲間も友達もほしいと思って参加した。そこから繋がってホームスタートも紹介してもらった。

利用者Bさん Wツイン(上の双子が2歳7か月時、出産後下の双子が4か月で上の双子が3歳2か月の時に利用)

- 下の双子を妊娠しているときにホームスタートのことを教えてもらった。管理入院や出産の時期が上の双子の入園と重なっていて、入園準備を手伝ってもらった。上の双子の相手をしながらミシンのかけ方も教えてくれて、一緒に準備した。その頃はお腹も大きかったので、病院からは「安静に」と言われていたが、入院の準備もしなきゃいけないって買い物等もいっしょに手伝ってもらった。
- 下の双子の産後すぐからも来てもらった。一人で4人の世話をするのはとても大変で、うまくいかないと上の子に当たりそうになってしまうこともあったが、ちょっと遊び相手になってもらったり一瞬だけでも離れて、少しの時間だけでも自分の気持ちに余裕をもてたのはよかった。
- 私が地元の人ではないので「どこどこのスーパーで新鮮な野菜あるよ」とか地域の情報も教えてくださって助かった。上の子はビジターさんに慣れて、「あ、来てくれた」と楽しみに待っていた。主人も「お願いできたらお願いしようか」と頼れて安心だった。
- ビジターさんが双子の母親であることが必要だとは、考えたこともなかった。一人を抱っこしてもらっただけでも助かるし、そのことで困ったりしたことはなかった。
- 無料だときいたときは、「ビジターさんはそれでいいのかな」と気になった。でも預けるとなればファミサポでも、一人一人にお金がかかるし、その他のことも何でも倍以上になるので、経済的な面でもありがたかった。
- この広場では、プレママ講座や月に1回の双子デーがある。なかなか参加できないが、参加したいと思っている。双子だからわかることもあるし、託児などもたくさんつけてくださるので、一人で公園などに連れて行くより安全かと。
- 病院に急にいかなければいけなくなった時に、4人同時に病院へ連れていくことになった。そういう緊急の時の支援があるとありがたい。

利用者Cさん(上の子が4歳(年中)下の双子1歳6か月から利用)

- 夫が長期出張に行くことになり、双子を含めた3人の子どもを一人でみることになったので利用したいと思った。私が上の子の相手をするので双子をちょっと見てほしいという気持ちだったが、実際に来てもらうと上の子がビジターさんをとても好きになってずっと遊んでもらった。
- 来てもらうだけで空気が違う。ずっと4人だったところに違う方が入ってきてくれて、上の子はいつも家の前で「まだ？まだ来ない？いつ来るん？」ってビジターさんを待っていた。私自身「上の子を見てあげないと」と思っていたが、ビジターさんが来てから「みんなで遊べばいいんだ」と思えた。ビジターさんと上の子が遊んでいると、楽しそうなので下の双子も勝手に混じって遊んでいて、私も様子をみながら野菜を切ったり洗濯物を畳んだり、ちょっとしたことがササッとできた。来てもらえてすごくよかった。
- ビジターさんは双子の母親でなくてもどなたでも。子どもが好きな方だったので一緒に遊んでもらえたのはとてもよかった。ビジターさんは3人も育てた方だったので、自分が「どうしよう、どうしよう」と思っていることを話してみると、「こうしてみれば？」というヒントももらえた。とても気持ちがラクに、柔軟になった。友達ではない、ビジターさんが家に入ってくるのは「新たな発想」「新しい風」みたいでいい感じ。一日中子ども達とだけで過ごすので、しゃべり相手がちょっといるというだけでもやっぱり違う。
- 上の子がこの広場に遊びに来ていたのでそこでホームスタートのことを知ったが、夫の長期出張が決まってから「あれだ」と。この広場に来てなかったら多分知らなかった。身近なところに情報があってよかった。
- 私の場合、たとえば「1時間子どもの面倒を見てもらう」というのも良い。お掃除とかを1人でやるのは好きなので、子どもを家の外とかで見せてもらって、ちょっと離れて自分で何かする時間をもてるような支援もいい。



## 10. 多胎育児家庭に対する家庭訪問型支援の先進事例のまとめ

### 1) 各事例のまとめ

【大津市】では、「多胎児家庭育児支援事業」として、3歳前日まで120時間、家事支援の他、乳幼児健診時や予防接種時などの外出支援が、所得制限のない無料のサービスとして利用できる。利用促進のため、周知が徹底して行われ、電子申請も可能にするなどの配慮がある。利用率は、平成23年度の30%を最高として、例年約2割である。利用者アンケートでは、双子の世話を慣れていて安心できた、見てもらう人がなかったとき助かった、話し相手になってもらえたなどがあった。市としては国の交付金を利用するため経費負担は軽く、利用料や所得制限をなくすことで事務作業負担も少なくなっている。受益者負担となっている他の事業との整合性が課題であるので、利用者と非利用者の効果の比較などの事業評価法を探究している。

【川越市】の「多胎及び第三子ヘルパー派遣事業」は、妊娠期から生後1年間、所得制限がなく無料で64回という回数を利用できる。安静が求められる多胎妊婦が利用でき、複数回の訪問が信頼関係や安心感に効果的である。利用者からの申し込み方法がシンプルであり、事業者の紹介まで担当課が担うことで、利用者の負担が少ない。ヘルパーの支援内容が柔軟で利用回数が多いことは、自立を促すことになっている。例えば、利用限度の全回数利用者は1~2割程度であった。大変な時期に希望した内容の支援を受けることによって、「自分でもできそうだ」とエンパワメントされたと考えられる。「もしできなかつたらまた頼めばいい」という安心感にもつながる十分な回数が確保されることの重要性を示している。

【宝塚市】では、「多胎ファミリー・健診サポート」がある。所得制限のない無料のサービスとして、4か月児、10か月児、1歳6か月児健診の場で多胎育児経験者がサポートするものである。多胎家庭の乳幼児健診の場での、2人を同時に駐車場から連れて行くという物理的困難さに加えて、混雑する中で2人を連れて自分だけ時間がかかり、後ろの人を待たせてしまって申し訳ないという心理的困難さを解決するため、当事者団体に呼びかけ、協働して健診サポートという事業をおこした。当事者団体のスタッフと共に多胎支援研修を受講し、自らも学び、当事者団体の力を見極めて本事業を行う決定をした。これにより、多胎家庭の健診未受診率を下げ、多胎家庭の健診場面の心身の困難感が軽減され、多胎育児の先輩とも繋がって相談相手の獲得もできるという、多面的な効果を得ることができている。

【久留米市】では、「多胎妊産婦のための産前・産後サポート事業」がある。所得制限のない無料のサービスとして、産前サポートとしての当事者の病院訪問と産後サポートとしての新生児訪問の保健師に当事者の同行訪問がある。市の保健師が当事者の声に応じて、医療機関と当事者団体をつなぎ、三者が連携して多胎家庭を支援する仕組みを構築した。結果、それぞれの持ち味を活かした支援が可能となっている。病院訪問では、あわせて9割近い多胎出産を扱う2つの周産期センターと連携することで、妊娠期の多胎家庭と育児経験者の接点もて、効果的な情報提供や仲間づくり、相談窓口の獲得の機会をつくっている。新生児訪問の当事者の同行訪問では、保健師から家庭に案内がされ、ほぼ全数に近い利用率につながっている。経費負担としては、国の交付金の利用で市の財政負担は少ない。

【ぎふ多胎ネット】は、多治見市を中心に岐阜県内の多胎育児支援を行うNPO法人である。医療、行政、研究者とネットワークを組み、協働で妊娠期から出産、育児期に至るまで、切れ目のない支援を行っている。医療、行政、研究者、当事者(ピア)は、それぞれの得意分野を活かしての連携で、多胎家庭の個々のニーズに沿った先駆的な支援を実施し、全国のモデルとなっている。全ての支援メニューは無料で利用できる。多胎育児特有の悩みは、乳児期、幼児期、学童期、思春期と続くが、多胎育児の先輩に相談することで、軽減し、子育てを

楽しむために、岐阜県内ではピアサポートによる循環型子育て支援体制を確立し、安心して子育てできる環境づくりを実践している。独自の訪問支援事業では、「ピア家庭訪問・個別訪問」がある。団体が獲得した各種助成金等の財源で、訪問希望のある多胎家庭に多胎育児経験者が訪問して、傾聴と情報提供で育児の見通しを持てることを支援している。

【岐阜県立多治見病院】では、ぎふ多胎ネットに委託契約して「病院サポート訪問」を多胎妊婦に利用料無料で実施している。多胎育児経験者であるピアサポーターが病院の外来や病棟へ訪問して多胎妊婦への傾聴と情報提供する場を毎月 1 回設けている。妊婦は、特別に申し込みをせずに病院スタッフからの案内で利用でき、妊婦健診の外来での待ち時間や管理入院中のベッドサイドで、不安な気持ちの受け止めや今知りたいことを教えて貰うことで、不安が軽減され、安心して出産に望むことができる。病院スタッフは、多胎妊婦へピアサポーターの紹介をし、専門的な質問に対応している。

【多治見市】は、ぎふ多胎ネットに委託契約して「こんにちは赤ちゃん訪問時のサポーターの同行訪問事業と、健診サポート事業」を利用料無料で実施している。サポーターは、研修を受けた多胎育児経験者である。こんにちは赤ちゃん訪問では、保健師だからできる支援(母親の体調管理、産後鬱の予防、赤ちゃんの発達の確認、育児相談)と、経験者だからこそ分かる生活面のサポート(ダブル泣き、同時授乳等多胎特有の子育てのノウハウを伝授)の両面で、母親は安心して多胎育児に取り組むことが可能になる。健診サポート事業は、4 か月児、10 か月児健診時に、サポーターが駐車場から健診の全行程に同行しサポートするものである。多胎児を連れての健診の受診は身体的に困難であると同時に、多胎児は早産や低体重で生まれることが多いので不安を抱えている保護者が少なくない。同行によって、身体的困難の軽減ができ、不安の傾聴や情報の提供もできる。行政側にとっても未受診を防ぐことができ、母からゆっくと相談事を引き出せる効果がある。利用希望者は、ぎふ多胎ネットに直接申し込みをして、日程等の打ち合わせを行うため、市の事務作業負担は少ない。

【京都府助産師会】では、京都府内の多胎妊婦育児者に、「多胎妊婦・産後家庭訪問」として、助産師という専門性を生かした支援を有償で提供している。多胎産婦の特別なニーズにきめ細かに応え、同時授乳等の授乳指導をはじめ、母体の回復に問題のあるケースには託児をして母親の睡眠時間を確保するなど、その支援は「指導」ととどまらず、本当に必要とされている支援を提供することで育児不安や育児困難感、孤立感の軽減を図り、虐待防止に貢献している。こうしたニーズにきめ細かに応える支援ができてるのは、京都府助産師会の多胎支援グループが長年続けてきた「多胎妊婦家族教室」のアドバイザーとして招いている先輩家族から多胎育児の状況を熱心に聞き取ってきた経験によるものと思われる。その長年の多胎家族に寄り添ってきた蓄積が、多胎家庭のニーズの把握につながり、必要とされている支援を提供できる団体になっている。

【NPO法人おやこの広場あさがお】は、石川県白山市にある「地域子育て支援拠点事業」者である。ひろばに來ない親子がどうしているかと、訪問型子育て支援ホームスタートを開始した。支援の特徴は、研修を受けた地域のボランティアがホームビジターとして傾聴と協働で無料の支援をすところにある。訪問対象は多胎児に限定せず、訪問支援するホームビジターは、必ずしも双子の母親ではないが、利用回数は多胎児家庭は通常家庭の倍の回数と団体内で共通理解している。ホームビジターの交代はほぼなく、同じホームビジターが継続訪問するため家族とも信頼関係が構築されやすい。今回の多胎児家庭の利用者のヒアリングでは、多胎児の育児経験者であることがビジターの条件とせず、経験豊かな日常生活の中でよくある話題を通して、利用者が自分自身を取り戻していくことが語られた。当該団体は、多胎育児に関する他事業も実施しているので、訪問事業と関連させ、多機関と連携して多胎家庭を支援している。

## 2) 利用者のアンケート結果や今回の利用者ヒアリングからの主だった意見

以下が、支援方法別の利用者の主な意見である。

【家事育児ヘルパーの利用】家事は掃除、育児は兄姉の世話の利用が多いが、同時に母が日中の話し相手になってもらうことで、気持ちが落ち着き、子どもにもゆとりのある接し方ができた。

【健診サポートの利用】荷物が多く、一人で二人を健診に連れて行くのは不可能であり、他の母親と話す余裕もなく疎外感を感じるので一緒にいてくれて助かった、サポーターが双子の母だったので育児の見通しを教えてくれたのが良かった。保健指導の内容も一緒に聞いて経験者としてフォローしてくれたのが良かった。

【ピアサポーターの病院訪問利用】長期の入院で身動きが取れない中で、ありがたかった、実際の育児経験をした人から多胎児ならではの話が聞けた、妊娠中の過ごし方・授乳方法・沐浴方法が経験者からの具体的に分かって安心した。

【保健師と育児経験者の同行訪問利用】育児で悩んでいたが、体験談からみんな同じ様にやってきた事が分かり、安心して楽になった。

【ピアサポーターの訪問利用】不安がいっぱいだったが話を聞いてもらって前向きになった、外に出るのが大変なので、家に来てもらって嬉しかった、話を聞いてもらうことで子どもに優しく接する事ができた。お風呂の入れ方や同時授乳を一緒にやってくれてよく分かった。

【ホームスタートの利用】一人を抱っこしてもらえるだけでも助かった、子どもの遊び相手になってもらい、一瞬だけでも離れて気持ちの余裕が出来た、公園や児童館は一人で二人を連れて行けなかったが、一緒に行ってもらえて心強かった。話し相手になってもらうことで、夫婦の間でも会話や笑顔が戻った。無料で有難かった。

以上より、外出が困難な多胎妊婦や多胎児の母にとって、訪問型支援が有効である事が示された。多胎育児経験者によるピアサポートの場合は、経験者ならではの必要な手助けと体験談や育児の見通しの提供と傾聴でサポートが出来ている事が分かる。多胎育児経験者でない場合も、多胎児の育児困難感を理解した上でのサポートで助けられている。いずれの場合も、話し相手として期待され、育児不安感の軽減や前向きな育児に重要な役割を果たしていると考えられる。

## 3) 課題

利用率、財源、人材、評価、利用回数の拡大、繋がりのない家庭、連携会議の持ち方等が挙げられた。利用率について、自宅の訪問の場合、利用者負担金はない場合でも、周知はどの機関・団体も良く努力しているにも関わらず、利用率は、平均が2割から3割である。京都助産師会は利用率が低迷であるため、平成29年度をもって、多胎育児支援事業を、ハイリスク対象とすることとなった。理由は、祖父母や家族等の支援があるのか、家庭に他者が入ることに懸念があるのか。有償であるためか、周知に問題があるためか、繋がりのない家庭の課題にも関連して今後検討する必要がある。

財源について課題としたのは民間団体である。行政機関は、国の交付金があることと、多胎家庭数が少数であること、全てが利用するわけでないことなどから負担感はなかった。人材については、民間団体、医療機関が課題とした。評価、連携会議の持ち方は、業務の質の向上に必要である。行政機関においては、受益者負担となっている他の事業との整合性が課題であることから、多胎育児支援の効果を示す指標が急がれる。